

復活（蘇り）

ウェストパームビーチ フロリダ州 アメリカ合衆国

1953年12月05日

1 ありがとうございます、ヴェイル兄弟。

皆さん、こんばんは……いえ、今日は午後ですから「こんにちは」と言うべきですね。

私はいつも夕方の礼拝に慣れているものですから、つい「こんばんは」と口にしてしまいます。

本日こうして、このアリーナに集うことができ、本当に感謝しております。

あちらに見えるリングを目にするたびに、かつて自分自身があの中でボクシングをしていた頃を思い出します。けれど今は違います。私は悪魔との戦いの中にあり、持てるすべての力を尽くして彼に挑んでいるのです。

そしてボクシングの中で一つ学んだことがあります。それは「防御の技術」です。防御を持たなければならないということです。これは霊的な戦いにおいても同じであり、私たちにとって最高の防御は、イエス・キリストの御血です。

ただこう告げればよいのです——「主はこう仰せられる。サタンよ、ここに書かれている。」——これで十分なのです。

神の御言葉は、いつでも、どこでも、昼であろうと夜であろうと、サタンを打ち破ります。

イエスご自身がサタンに勝利されたのも、この「書かれた御言葉」によってでした。それは、御言葉によってサタンを退けることができるのだと示されたのです。

ですから、これは「信仰の幼子」であっても可能なのです。たとえあなたがどんなに小さく弱く見えても、ただ「御言葉に書かれている」と言えばよいのです。

2 サタンが私たちの主イエスのもとに来て、こう言いました。

「もし（そう、“もし”という疑いの言葉です）、あなたが神の御子なら、この石をパンに変えてみよ。できるはずだ、もし本当に神の御子なら。」

しかし主は御自分の力をお使いにならず、ただこう答えられました。

「“人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる。”」

それは旧約聖書、そして詩篇にも二度書かれている御言葉でした。

次にサタンは主を神殿の頂に連れて行き、こう言いました。

「ここから飛び降りてみよ……。」

しかしもし主が、父なる神の御命令なしに飛び降りていたなら、それは命を落とすことになったでしょう。なぜなら主も人として来られたからです。だからこそ、ただ神が示されることだけを行われたのです。

では、イエスはどのようにして御父と働きを共にされたのでしょうか？

それは幻（ビジョン）によってでした。主ご自身が「父がわたしに示されること以外、わたしは何も行わない」と仰せられました。

ですから、そのとき父は何も示しておられなかった。だから主は飛び降りることをなさらなかったのです。主は御父の御心を知っておられたのです。そうでしょう？その通りです。

3 そしてサタンは主を神殿の頂に連れて行き、さらにそこから高い山へと導きました。

そこで起きたことは、私たちにとって本当に衝撃的なことです。

サタンはほんの一瞬のうちに、全世界の王国を主に見せたのです。考えてみてください。つまり、彼は一気にその幕を開き、アメリカ、ロシア、大英帝国、そのほかすべての国々を見せたのです。

そしてサタンは言いました。

「これらはすべてわたしのものだ。もしあなたが私を拜むなら、これらをあなたに与えよう。」

主イエスはご存じでした——それらが一時的にはサタンに支配されていることを。

しかし同時に、至福千年において御自分がすべてを受け継がれることも、既にご存じだったのです。

ほんの数待つことなど何の問題もありません。やがて必ず御自分のものとなるのですから。

ですから主はこう宣言されました。

「“主なるあなたの神を拜し、ただ主にのみ仕えよ。”」

サタンは御言葉を浴びせられ続け、それで決着がつきました。主が御言葉を注ぎ続けられたとき、サタンは打ち破られたのです。

でも、皆さん考えたことがあるでしょうか？——この地上の国々がサタンに支配されているということ。

聖書ははっきりと、諸国がサタンの支配下にあると語っています。だからこそ戦争が絶えないのです。

けれども黙示録にはこうあります。

「天も地も喜び、この世の国は、わたしたちの主とそのキリストの国となった。」

アーメン、それは真理です。

4 その時こそ、イエスが御支配を始められる時です。

そして主は千年の間、王として治められるのです。

その時には戦争は一切なくなり、剣はすべて鋤(すき)に打ちかえられ、槍は剪定ばさみに作り変えられます。

そうでしょうか？もう戦争はないのです。なんと素晴らしいことでしょう！

そして復活のとき、年老いた人々も再び若き男女へと戻されます。

これこそ驚くべき恵みではありませんか？

私たちの多くは、すでに人生の花の盛りを過ぎています。

けれど、神が人をお造りになった時、本来はその人が完全な男、完全な女としての姿に至ることを意図しておられたのです。

もし人生を妨げるものがなければ、誰もがその満ちた姿に至るのです。

ところがサタンはその歩みを妨げます。

でも、考えてみたことがありますか？

若いとき——二十歳前後の頃に持っていた髪の色、それこそが復活の時に戻される色なのです。

その通りです。

思ってみてください。

黄色いトウモロコシの粒を地に蒔いたら、青い粒が生えてくるわけではありません。そうでしょうか？

同じものが地に蒔かれ、同じものが芽を出すのです。

キリスト信仰の原理はすべて「復活」に基づいています。

地に下るのも同じ者、そして甦るのも同じ者なのです。

5 さて、あなたが十六歳から二十歳くらい——おそらく二十歳、二十一歳頃が人間として一番の盛りでしょう。その頃が細胞の働きも最も良い時なのです。

覚えていますか？

ある朝、髪をとかして、ふと横の方に白いものを見つけたときのことを。

「お母さん、見て!」と、驚いて言ったのではないのでしょうか。

私も二十五歳くらいのときでした。母のあの美しい鳩のような瞳に気づくと、その下に小さなしわが刻まれ始めているのを見たのです。

二十五歳を過ぎると、不思議なことにしわは少しずつ増えていきます。髪もさらに白くなっていきます。やがて肉体は緩んで膨らみ、水分もたまり始めます。

それは「戻り始めている」ということです。すなわち死が働き始めているのです。やがてそれはあなたを打ち負かすのです。

そうです、それが神の定めだからです。

この地上から私たちを移す方法は、死という一つの道しかないのです。そうでしょう？

6 人は、その盛りを迎えてから、少しずつ死へと向かっていきます。

やがて死はあなたを完全に打ち負かし、細胞は衰えて、最後には地の塵へと帰るのです。

けれども——神は何一つ失われることはありません。

神はあなたのすべてを最初からご存じであり、どこにあったかをすべて覚えておられるのです。

そうでなければ、どうしてそれらの細胞があなたに宿り、成長してきたのでしょうか？

誰かが外から貼りつけたわけではありません。あなた自身が押し広げられ、伸び、成長して、神が定めた大きさに達したのです。そうでしょう？

ですから、死ができることといえば、あなたをこの地上の生から取り去ることだけです。

ある作家がこう書きました。

「信者にとって死ができる唯一のことは、神がそれを馬車につなぎ、信者をその御造り主の御前に運ぶことだ。」

——なんと素晴らしい表現でしょう。そうではありませんか？

死はただ、信者を神のもとへと引き上げる、それだけなのです。

7 そして——復活の時には……。

ご覧ください、死ができることといえば、あなたをこの地上の生から取り去ることだけです。それで終わりです。

けれども復活においては、死はもはや何の力も持ちません。

あなたがこの地上で最も良き時にあったその姿——神があなたに定めてくださったその姿こそ、復活において再び与えられるのです。

もし時間がもっとあれば、聖書によってこれが真理であることを証明できるでしょう。影も形もないほどに疑いなく——旧約聖書において神がなされたこと、また御言葉全体を通して——それを示すことができます。

それは「あなたが若かった時の姿に戻され、そして永遠に若くある」ということなのです。

もちろん、私たちの姿や大きさには違いがあります。

誰かが「いや、みんな同じ姿になるのではないか」と言うかもしれません。

けれど、神はそのように単調なお方ではありません。

御自身の創造を見てみてください。

南にはヤシの木を造り、私の住む地方には樫の木を、山には松の木をお造りになりました。

小さな山もあれば、大きな山もある。小さな木もあれば、大きな木もある。

砂漠もあれば、ジャングルもある。山もあれば、平原もあり、海もある。

8 神は多様性の神です。

白い花もあれば、青い花もある。ピンクの花も、赤い花もあります。

そうでしょう？神は多様性に富んだお方なのです。

御自身が初めから造られたものを見れば、神がどのようなお方であるか分かるのです。

私たちが復活するとき——赤毛の人もいれば、黒髪の人、金髪の人もあります。

それぞれ、この地上での姿のままに、しかし完全な復活の体で現れるのです。

これは私たち年老いた者たちにとって、叫びたくなるほどの喜びではないでしょうか？

そうなのです、これは真理だからです。

「主はこう仰せられる」——この御言葉は決して失敗することがありません。

9 ですから、もしあなたがキリストにしっかりとつながれているなら——御霊によって、私たちは皆ひとつの教会にバプテスマを受けたのです。

（……皆さん、これを私だけに言わせて済ませてくださるつもりですか？[笑]）

そうです、「ひとつの御霊」によって、私たちは皆、ただ「加入」させられたのではなく、ひとつのからだ——信じる者のからだの中へとバプテスマを受けたのです。

水ひとつによってではありません。湖ひとつによってでもありません。

ただひとつの御霊によって、私たちは皆ひとつのからだにバプテスマされ、そのからだの一員となったのです。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう！これを思うだけで心が震えます。

では、そんなあなたに、何が害を及ぼせるでしょうか？

さらに、そのからだに入れられるとき、私たちは「ひとつのリバイバルから次のリバイバルまで」守られるわけではありません。

「贖いの日まで」封印されるのです。

エペソ4章30節にこうあります。

「神の聖霊を悲しませてはならない。あなたがたは贖いの日まで、聖霊によって封印されているのだから。」

ですから、もしあなたの信仰生活が上下に揺れ動き、後退したり前進したり、出たり入ったりして、自分がどこに立っているのか分からないなら——まだ封印されていないのです。

ちょうど貨物列車の貨車のようなものです。荷物を積み込んだあと、そのままでは封印できません。検査官が来て、中身を確認します。もし揺れたら崩れるような詰め方なら、やり直しを命じられます。

これが、リバイバルごとに私たちが繰り返していることなのです。そうでしょう？

中を整理し直して、もう一度やり直す——そうして戻ってくるのです。

けれども一度、本当にすべてが整えられ、神の御霊が完全に働かれるなら、あなたは神の子どもとなります。そのとき、扉は閉じられ、封印が押され、その封印は目的地に着くまで決して開かれることはありません。

そうでしょう？

これは神が定められた御業です。

ですから私たちは、聖霊によって贖いの日まで封印されているのです。

アーメン。

10 ああ、では私たちは一体何を心配する必要があるのでしょうか？

なぜあなたは長い顔をして歩いているのですか？酸っぱいものでも食べたように。

いいえ——笑顔になりましょう！

私たちは幸いな者です。クリスチャンです。

神は私たちを選び、キリストを与えてくださったのです。

今や誰一人として、自分から勝手に神のもとへ行くことはできません。

「いや、私は神を求めたんだ」と言う人がいるかもしれません。

——いいえ、そうではありません。あなたは決して自分から神を求めたのではありません。人間は神を求めることができないのです。そんなことは存在しません。

むしろ、神が人を探し求められるのです。

その通りでしょう？

「それは聖書にありますか？」と問うなら——はい、確かにあります。

イエスはこう言われました。

「父がまずわたしに引き寄せなければ、誰もわたしのもとに来ることはできない。」

人間の本性そのものは、完全に神に逆らっています。

だからこそ、まず聖霊がその心に働きかけ、神を慕い求める思いを植えつけないといけないのです。

そうでしょう？

そして主はこうも約束されました。

「わたしのもとに来る者には、永遠のいのちを与える。そして終わりの日に、その者をよみがえらせる。」

11 ですから、私たちが生きていようと死んでいようと、この世が続こうと終わろうと、人々があれこれ考えようと——私たちが取るべき道はただ一つです。

それは神を礼拝し、できる限り喜びに満たされて生きることです。

神が語られたすべてを信じましょう。

なぜなら、命も死も、何ものも、キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないからです。

やがて私たちは永遠に主の御前にいるのです。

「ブラナム兄弟、それはとてもカルバン主義的に聞こえますね」と言う方がいるかもしれません。

私はこう信じます——カルバン主義が聖書にとどまる限り、それを信じます。しかし、聖書から外れるなら信じません。

私が信じるのはこれです。

教会には永遠の保障があるということです。

神は約束されました。「その教会は傷も、しみも、しわもなく、完全な姿で御前に立つ」と。

その通りではありませんか？ 神がそう仰せられたのですから、それは確かです。

ですから、もしあなたが「教会」にいるなら、あなたはその教会と共に守られているのです。

ここで言う「教会」とは、メソジストでもバプテストでもペンテコステでもありません。

聖霊によって新しく生まれた教会——私たちが生まれ入れられたその教会です。

そこに在る限り、あなたは安全なのです。

12 この建物は、天候から守られるために建てられています。

ですから私がこの中に在る限り、天候は私を害することができません。

ここに屋根があるのですから、雨は降り注ぎません。

同じように、あなたが教会の中にとどまるなら、イエス・キリストの守りを受けているのです。

そうでしょう？

さて、ほんのしばらくお話ししたのは、人々が落ち着くためでした。

私は正直に言えば、他の場所での集会の予定を組んでしまったことを残念に思っています。

なぜなら、私は今でもこう信じているからです——マイアミとその周辺は、神の御力によってひっくり返されるほどの大リバイバルが起こる、と。

けれども、それには一か月ほどの時間が必要でしょう。

今この午後にここに座っている、ほんの少数の忠実な人々——眠れないほど、食べられないほど、神の御業を見たいと渴望している人々——そのような魂の産みの苦しみが臨むとき、シオンは子を産むのです。これは確かなことです。

そのような境地に達するとき、私たちは大きな前進を見ることになるのです。

私は心から願います。この小さな集会が決して消えることなく、生き続けるように、と。

パウロはこう言いました。

「ひとりが種を蒔き、別の者が水を注ぐ。しかし成長させるのは神である。」

ですから私は祈ります——神が水を注ぎ、聖霊がその成長をもたらしてくださるように、と。

13 さて、今日の午後、私はここでお話しし、あるいは説教をすることになっています。

ですが、前にも言ったように、私はあまり「説教者」ではありません。

自分では、いわば「スペアタイヤ」のようなものだと思っています。〔笑〕

だから、あちこちでこうして説教するだけなのです。

なぜそう言うのか——それは主に対する敬意からです。

もちろん私は心から主を愛しています。

もし教育を受けることで、もっと主を愛することができるというのなら、兄弟姉妹よ、私は今すぐ大学に行きます。

けれど神は、主を愛するのに教育を求められるのではありません。

ただ単純な心を求めておられるのです——主を信じる、その素直な心を。

それが大切なのです。

多くの場合、私はこう申し上げます——これは自分の無学を正当化するために言うのではありません。

しかし実際のところ、教育こそがイエス・キリストの福音を妨げてきた最大の障害なのです。

それは真実です。

神学が、聖霊の代わりの座についてしまった——それもまた真実です。

14 そして今、私がまだ小さな少年だった頃のことを思い出します……。

私はずっと馬が好きでした。そして今日、ここにとても素晴らしい少年が来ています。ヴェイル兄弟の息子さんで、名前はグレイと呼ばれていましたね。実に素敵なお子です。

彼はこう言ったのです。

「ブラナム兄弟、ぼくにとって、このヤシの木はここに住んでいる人たちのものなんです。」

彼はカナダの出身でしたから、雪国に帰りたがっていたのです。

彼も馬が好きだと言うので、私はこう答えました。

「自然を愛している限り、君は間違わないよ。なぜなら神は自然の中におられるのだから。」

そう語りながら、私は自分がまだ小さな少年だった頃のことを思い出していました。

私もそうでした——自然が好きで、馬が好きでした。

私の父は馬乗りで、とても上手でした。

さらに、彼は射撃の名人でもありました。ああ、何とすばらしい腕前だったことでしょう。

父は大きな石のビー玉を転がし、それを銃で撃ち上げ、二丁のリボルバーを使って、片方でビー玉を空中に撃ち上げ、もう片方で地面に落ちる前にそれを粉々に撃ち砕いたのです。

私はというと、動かない洗濯桶ですら当てることができなかったのに。

それでも私はそうした野外の光景が大好きでした。

そして馬に乗ること……。

父が荒馬に乗るのを見たときには、正直、私は怖くて仕方がなかったほどでした。

15 しかし、私がまだ幼い少年だった頃のことです……。

父は母と出会いました。母はテキサス州パリスの出身で、父はケンタッキーの出身でした。

父はそのときロデオで馬をならしており、そこで母に出会ったのです。

そして二人は結婚し、母が十五歳のときに私が生まれました。

父は十八歳でしたから、母も父もまだ子ども同然でした。

私はいつも父のようになりたいと思っていました。父が大好きだったのです。

父はクリスチャンではありませんでした——亡くなる少し前まで。

けれども最後に、私が父をキリストへ導くことができました。

父は生粋のアイランド人で、大のお酒好きでした。

それでも私は気にしませんでした。何をしようかと、彼は私の父だったのです。

——ここで若い皆さんにお伝えしたいのです。

あなたがたの愛する母や父を、「おふくろ」「親父」などただの年老いた人扱いするようになってしまったとき——それこそが、信仰生活において最大の後退の一つなのです。

母がどれほど大切であるか、父がどれほど尊いか——それを本当に知るのは、棺の蓋が閉じられ、扉から運び出されるそのときです。

そのときになって初めて、父は単なる「年寄り」などではなく、かけがえのない父であったと悟るのです。

その白髪は——あなた自身がその一部を刻んでしまったのだと気づくのです。

16 私の父は、一日わずか七十五セントの賃金で働いていました。

あまりに日焼けしてシャツが背中に張り付いてしまい、母がハサミでその背中を切り開かなければならぬほどでした。

——七十五セントのために、幼かった私のために、生活の糧を稼いでくれたのです。私はまだ四歳か五歳で、何も分からない頃でした。

それでも、彼は私の父なのです。

いま、インディアナの彼の墓には雪が積もっているかもしれません。

けれども、それでも彼は私の父なのです。はい、そうです。そして私は父を愛していました。

私はいつも父のようになりたいと思っていました。

あるときのことを覚えています。私たちが小さな農場で働いていた頃のことです。

私は古い鋤引き用の馬を一頭もらいました。父が私にそれを使わせてくれたのです。とても穏やかで年老いた馬だったからです。

私はその馬で畑を耕し、それから古い水飲み場まで降りて行きました。

そこには切り出した丸太で作った水槽がありました。

皆さんの中にも、あのような水飲み場をご存じの方がいるでしょう。

……ああ、今日ここにネクタイを締めて来たのはなぜでしょうね。私たちはただの田舎者ではありませんか？

たとえパームビーチに住んでいても、田舎者の心は抜けていません。そうでしょう？

その古い水飲み場には、蜂が飛んできてブンブンと音を立てていました。

そして私たちは馬のたてがみや尾の毛を抜き取って、その中に入れ、「馬の毛の蛇」を作ったものです。

その小さな細胞のようなものが、うごめくのを見たことがありますか？

私たちはよくそんな遊びをしたものです。

17 それから私は……。

いつも少し早めに家に戻って、まず馬に水を飲ませました。

かわいそうな父は、暗くなるまでずっと働き続け、最後には古い牛の乳を搾らなければなりませんでした。兄もそうでした。私はどうしても搾乳ができなかったのです。

それで私は馬に水をやり、家の周りの雑用を少し済ませました。

すると兄たちはみな、柵のこちら側に登って腰をかけていました。父はまだ敷地の奥で働いていました。

私はその古い馬を連れてきて、母も誰も見ていないのを確かめると、父の鞍を持ってきて馬の背に乗せました。

そしてイガイガのついた草(オナモミ)をひとつかみ取って、鞍の下に忍ばせ、腹帯をぐっと締めたのです。

それから馬にまたがりました。

ここにいる方で、鞍の下にオナモミを入れて乗ったことのある人ならわかるでしょう。

かわいそうな老馬……。あの時のことを思うと、今でも恥ずかしい気持ちになります。

その老馬はあまりに疲れ果てて年老いており、ろくに足を持ち上げることもできませんでした。

けれどもオナモミが体を刺すので、痛みに耐えられず声を上げ、足をぎこちなく上げ下げするのです。

しかしもう老いすぎていて跳ねることはできません。体も硬直していて、ただ泣くように声を上げながら足を動かすだけでした。

その背で私は帽子を振り回し、体を左右に揺らして——「カウボーイ気取り」になっていたのです。

本物のカウボーイだ、と自分では思っていました。ええ、本当に。

兄たちは柵の上から拍手をしてくれました。

ああ、あの時の私は得意満面で、「立派な乗り手」のつもりでした。

でも実際には——ただ椅子に座って誰かに揺らしてもらっているのと同じようなものだったのです。

18 それから十八歳くらいになったときのことです。

私は「西部では馬をならすのに私のような人材がどうしても必要だ」と思い込んでいました。

彼らは私なしではやっていけないだろう、と。

そこで家を抜け出し、西部へと向かいました。

アリゾナに着いたのは、ちょうどロデオの季節でした。

リーバイスを一着手に入れて、こう思ったのです。

「これで俺は銀の鞍に乗って故郷へ凱旋し、大金を稼いでみせるぞ。」

そう意気込んで、囲いの柵に登って見っていました。

馬が放たれ、そこに乗り手が挑むのです。

さて、その馬がシュートから飛び出した瞬間のことです。

彼らは馬を牛の囲いに放ちましたが……。その馬は跳ねて、二度ばかり大きく飛び上がり、ひと跳ねして、鞍は一方へ、乗り手はもう一方へと吹き飛ばされました。

追い手たちは馬を捕まえました。救急車が運んでいったのは乗り手でした。

彼は血を耳や鼻から流し、地面にぐったりと倒れていたのです。

私は思いました。

「ああ、あれは俺が乗っていた古い鋤引き馬とはまるで違う……。」

銀の鞍に乗って凱旋できるかどうか、怪しいな。」

19 すると呼びかける人が出てきて、こう言いました。

「この馬に二分間乗り続けられる者には、百ドル払おう！」

そしてその人は、柵に並んでいる本物のカウボーイたちの前を歩いていきました。

彼らは皆、顔に傷や跡を残し、荒々しい牛飼いのものでした。

一方の私はといえば、柵に腰を下ろし、両足を広げ、カウボーイらしく見せようと帽子をかぶり、耳まで引っ張り下げていました。

その男はまっすぐ私の前まで来て、顔を覗き込み、こう言ったのです。

「お前は乗り手か？」

私はすぐさま答えました。

「いえ、違います！」

私はあっという間に考えを変えました。自分が乗り手ではないことをはっきりと悟ったのです。

あの馬は、かつて私が乗っていた鋤引き用の古い馬とはまるで違うのです。

あんな馬に乗ってられるわけがありません。

——だからこそ、今も私はこう言うのです。

「私は説教者ではありません。」

20 私が最初にバプテスト教会で按手を受け、地方伝道者の許可証をいただいた頃のことです。

聖書を腕に抱えて歩き、誰かに会うたびにこう言われました。

「おや、あなたは伝道者ですか？」

私は胸を張って答えました。

「はい、そうです！」

ある日、ミズーリ州セントルイスに行ったときのことで。

そこにロバート・ドハーティというペンテコステ派の伝道者がいました。

私はテント集会で彼の説教を聞き、そこで手伝いをするようになっていたのです。

その人は顔が真っ赤になるまで説教し、息が切れて膝を折り曲げるほどでした。

ところが息を整えると、三ブロック先でも聞こえるほどの大声で、立ち上がって再び説教を続けるのです。

そのとき誰かが私に尋ねました。

「あなたも伝道者ですか？」

私は答えました。

「いいえ、違います。」

私の古い、ゆったりとしたバプテスト流儀では、あんなに早くは思いつきませんでした。

ですから私は、軽々しく「自分は説教者だ」とは言わないようにしているのです。

特に、ヴェイル博士や、ここに座っておられるような本物の伝道者の方々を前にしてはなおさらです。

けれども、私がこうして語る時、ただ一つ望むことがあります。

それは——主のことをお話しすることです。

それは私たち皆がそうしたいと思うことですよね？

21 では、ここで御言葉を読み、主に助けを求めましょう。

もう皆さんも落ち着かれ、集まってくださったように思います。

あまり長くはお話ししませんから、どうぞご安心ください。

けれども、私は聖書の御言葉を読みたいのです。なぜなら、主の御言葉は決して失敗することがないと知っているからです。

私は御言葉を心から信じています——皆さんはいかがですか？

そうです、これは「主はこう仰せられる」と宣言された御言葉です。

私はそれを信じています。私の魂のすべてをその一言一句に委ねることができるのです。

——ああ、もう少しだけそのままにしておいてくださっても良かったのですが……〔聴衆の反応に応じて笑いながら〕

さて、それではヨハネの福音書第11章から読みたいと思います。

（ああ、本気でそう言ったわけではありませんが、それでも感謝します。）

22 それでは、ヨハネの福音書11章18節から御言葉を読みたいと思います。

今日のお話のテーマは「復活」です。

——何という素晴らしい御題でしょう。

もしかすると、私たち自身にも「復活」が必要なのではないのでしょうか？そう思いませんか？

昔ある牧師が、一晩目に「悔い改め」を説きました。

次の晩も「悔い改め」。一週間まるごと「悔い改め」。そして二週目に入っても、やはり「悔い改め」。

すると長老の一人が彼に言いました。

「先生、ほかに説くことはないのですか？」

すると彼は答えました。

「もちろん、あります。皆が悔い改めたら、そこで次に進みます。」

——その通りです。

悔い改めがなされたとき、次の段階へ進むのです。よい考えだと思いませんか？

さて、ヨハネの福音書11章18節からです。

「さて、ベタニヤはエルサレムに近く、十五スタディオンばかり離れた所にあった。

多くのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来て、兄弟のことで彼女たちを慰めていた。

ところが、マルタはイエスが来られると聞いて迎えに行ったが、マリヤは家の中に座っていた。

するとマルタはイエスに言った、『主よ、もしあなたがここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。』

しかし、今でもあなたが神にお求めになることは、なんでも神はあなたにお与えになると私は知っています。』

—私はこのマルタの言葉が大好きです。皆さんもそうでしょうか？

イエスは彼女に言われた、『あなたの兄弟はよみがえるであろう。』

マルタは言った、『終わりの日の復活の時によみがえることは存じております。』

イエスは言われた、『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていてわたしを信じる者は、決して死なない。あなたはこれを信じるか？』

彼女は言った、『はい、主よ。私はあなたがこの世に来られる神の御子キリストであると信じます。』

23 では、このひととき、私たちの思い煩いを脇に置きましょう。

数分間、主に語りかけたいのです。まず頭を垂れましょう。

—祈ります。

天の父よ、

今日、私たちの心に与えられた喜びと楽しみに満ちた心を感謝いたします。

それはただ、イエス・キリストによってのみ可能となったものです。

私たちが知っていることを思えば、どうして悲しみに沈むことがあるのでしょうか。

主よ、私たちを顧みてくださり、この大いなる交わりへと招き入れ、

さらにキリストを通してあなたとの交わりに与らせてくださったことを心から感謝します。

御子イエス・キリストによって、私たちは神との子としての関係に生きることができるのです。

今どうか、この世のすべての思い煩いを、今この瞬間に取り除いてください。

明日やあさってに何があるかなど問題ではありません。

それが来ないかもしれないのですから。

今この時、私たちは御言葉に耳を傾けたいのです。

神よ、語るべきことを知らないこの僕の唇を割礼してください。

そして聞く人々の心をも割礼してください。

聖霊よ、神に属するこれらのことを取り、それを信じる者の心に、またまだ信じていない者の心に置いてください。

そして御霊の力ある祝福によってそれを潤し、主のための実を結ぶものとしてください。

主よ、どうか私たちの祈りを聞いてください。

この建物を出るときには、一人の病人も残されませんように。

一人の罪人も残されませんように。

罪人は救われ、病人は癒され、聖徒たちは力と栄光に満たされて、

神の御子イエス・キリストをあがめますように。

この祝福を願い、イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

24 さて、これから私たちは、イエスのご奉仕の大原則、そして主がどのようなお方であられたかに思いを向けたいと思います。

今読んでいる本文の箇所は、まさに主のご奉仕が芽生え始めた時期のことです。

よく注意して見ると、イエスのご奉仕の第一年目には、人々は主に全幅の関心を寄せていました。

しかし二年目に入ると、人々は少しずつあら探しを始めました。

そして、しばらくすると彼らはついに主を十字架につけてしまったのです。

これはリバイバルと同じです。最初は勢いよく芽生え、花を咲かせます。

けれども一度そのきらびやかさが剥がれ落ちると、静まり始めるのです。

この時点でイエスがお語りになっていたのは、まさにご奉仕の初めの頃でした。

人々は主を一目見ようと、あらゆる地方から集まってきました。

その間、イエスは友人たちの家に滞在されていました。

それはマルタとマリヤという二人の姉妹と、その兄弟ラザロでした。

私は読んだことがあります。マルタとマリヤは日々の糧を得るために、神殿に納めるための小さな織物や刺繍を作っていたそうです。

そして兄弟ラザロは律法を書き写す「書記(スクライブ)」になるための訓練を受けていました。

律法の文字を書き記すことは、実に献身的で敬虔な者にしか許されない務めでした。

ほかの者の手によるものは決して受け入れられず、書き記すのはただ「書記」と呼ばれる人々に限られていたのです。

25 イエスはベタニヤに来られ、マルタとマリヤ、そしてラザロと共に住まわれました。

そして主のご奉仕は、ちょうどこのベタニヤで最も豊かに現れていたのです。

ではここで少し振り返り、イエスのご奉仕について見てみましょう。

神はいつでも、何かをなさる前に人々に告げ、警告を与えられます。

皆さん、それを信じますか？

私は聖なる畏れをもって申し上げます。

今日、クリスチャンの皆さんが目にしてるしるしや不思議な御業——それは間もなく来るさばきの確かな証拠であると、私は信じています。

アーメン。

さばきは必ずこの世に臨まなければなりません。

なぜなら、人々が憐れみを受け入れないなら、残されるのはさばきしかないからです。

憐れみは、いつもさばきの前に先立って現れます。

ノアの洪水の前にもそうでした。

バプテスマのヨハネの時にもそうでした。

そして今もまた同じです——さばきに先立つ憐れみが与えられているのです。

もしその憐れみを拒むなら、残されるものはただ一つ——さばきです。

26 よく人はこう言います。

「神はさばきの日に、私をさばかれるのでしょうか？」

——いいえ、そうではありません。

あなたが今、この瞬間に神に対してどのような態度を取るか、それがすでに自分自身をさばいているのです。

神はすでにこう宣言されました。

「その実を食べるその日、あなたは必ず死ぬ。」

これで決定は済んでいるのです。

神は御自身の御言葉に忠実であられるお方ですから、それ以上新しいさばきを下す必要はありません。

あなたの態度こそが報いなのです。

神が備えられた救いの道について、あなたがどう思うか——その道を拒むなら、

それはあなた自身が、自分にさばきを下していることになるのです。

27 神が地上に御自身のメッセージを送られる前に、しばしば御使いたちを——神の使者を——遣わされることがあります。

皆さん、それを信じますか？ 神には御使いたちがおられます。

しばらく前のことですが、ある人が私の説教についてこう指摘しました。

「ブラナム兄弟、あなたの説教で一つだけ欠点がある。」

その人は非常に堅実な信仰を持つ兄弟でした。

私は言いました。

「それは何ですか、兄弟？もし聖書的でないなら、私はすぐにそれを捨て、悔い改めます。」

すると彼はこう言いました。

「あなたはいつも“神の御使いがあなたに会い、こう告げた”と語りますね。

でも、ブラナム兄弟、神は御使いを通して教会を導かれるのではありません。教会を導かれるのは聖霊です。」

私は答えました。

「それは確かにその通りです。しかし、神には御使いたちもおられます。御使いは神から遣わされた奉仕の霊です。」

すると彼はこう返しました。

「でも兄弟、それは旧約聖書の教えです。あなたは新約と旧約をごちゃ混ぜにしています。」

私は言いました。

「旧約と新約は、一方がもう一方の影なのです。旧約がなければ新約は成り立ちません。両者が共にあってこそ、神の人々への態度を証明しているのです。」

28 パウロはヘブル人への手紙12章でこう言っています。

「このように多くの証人たちに囲まれているのだから、すべての重荷と、絡みつきやすい罪を捨てて走ろう。」

その兄弟は言いました。

「たとえばダニエルには御使いが来ました。しかし、新約聖書には、聖霊が来られた後に個人に御使いが現れることを支持していないのです。」

私は答えました。

「兄弟、それには私は同意できません。私はこう信じます。

聖霊は確かにここにおられます。

私たちを満たしてくださるのは聖霊であり、私たちのいのちは私たち自身のものではなく、聖霊が私たちの内に住まわれることによって、私たちはクリスチャンとなるのです。」

私は確信しています。

クリスチャンの体のすべての部分は、聖霊によって支配されているのです。

たとえば目もそうです。

あなたが悪を目にするのを止めることはできません。けれども、それを見て欲望に駆られたなら、その時点ですでに心の中で姦淫を犯しているのです。

ですから、あなたは目をそむけるのです——それをさせるのは聖霊です。そうでしょう？

誘惑そのものは罪ではありません。

誘惑に従うことこそ罪なのです。

イエス・キリストご自身も、私たちと同じように誘惑を受けられました。

しかし主は決して罪を犯されませんでした。

聖霊は神ご自身であり、私たちが神の真理を生きるのを助けてくださいます。

ですから私たちは「人々に読まれる生ける手紙」なのです。

29 その兄弟はさらに言いました。

「では、新約聖書に出てくる御使いたちについてはどうですか？」

私は答えました。

「マリヤを見てください。あの処女マリヤは御使いに訪れられたのです。」

すると彼は言いました。

「でも、それは聖霊が来られる前のことです。」

そこで私は尋ねました。

「ではお聞きします。あなたはピリポが聖霊のバプテスマを受けていたと信じますか？」

——私たちは皆、そう信じていますよね？

「ところが、ピリポがサマリヤで大リバイバルのさなかにいたとき、彼をガザの荒野へ呼び出したのは聖霊ではなく、主の御使いでした。

そうでしょう？ 聖書は確かに“主の御使い”と書いてあるのです。」

30 私たちは皆、ペテロが聖霊を受けていたと信じていますよね？

彼こそペンテコステの日、教会誕生の時に最初に立って語った代表者でした。

ですから、確かに聖霊を持っていました。

けれども彼が牢に入れられ、翌日には首を斬られることになっていたとき——ヨハネ・マルコの家では祈禱会が開かれていました。

そのとき、牢にやって来て彼を解き放ったのは誰だったのでしょうか？

聖霊でしょうか？

——いいえ、主の御使いでした。

御使いは光のかたちを取って現れました。そうでしょうか？

窓から入ってきて、ペテロを起こし、鎖を解き、見張りをすり抜けさせ、門を開けて導き出したのです。

ペテロは外に出るまで、ずっと夢を見ているのだと思っていました。

ああ、皆さん！ 神の力に完全に包まれるというのは、なんとすばらしいことでしょう。

そのとき人は自分の感覚もすべて失い、ただ神の御力に運ばれていくのです。

31 それはまさしく主の御使いでした。

あの偉大な聖パウロ（パウロ）も、もちろん聖霊を受けていました。

彼は聖霊について教え、ガラテヤ1章8節でこう言っています。

「たとえ天からの御使いであっても、もし異なることを教えるなら、その者はのろわれよ。」

さて、パウロが海に出ていたときのことです。

十四日十四晩、月も星も見えず、嵐の中にありました。

彼は船底の船室に下りて祈り、やがて両手を振りながら出てきました。

そして叫んだのです。

「皆さん、勇気を出しなさい！」

——一体パウロに何が起こったのでしょうか？

彼はこう言いました。

「私が仕えている神の御使いが、昨夜、私のそばに立ってこう言われた。

“パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカエサルの前に立たなければならない。

そして見よ、神はあなたと共に航海している人々をすべて、あなたに与えられた。”

そしてパウロは続けました。

「だから皆さん、勇気を出しなさい。私は神を信じます。私に語られた通りになると信じるのです。私が仕える神の御使いがそう告げられたのだから。」

これもまた、神の御使いでした。

そして思い出してください。黙示録全体が御使いを通して書かれたのです。

ですから——神には確かに御使いたちがいるのです。

32 さて、神が御子イエスをこの地上に送られる前にも、まず御使いを遣わされました。

御使いはひとつの家庭に来ました——それはザカリヤとエリサベツの家でした。

彼らは評判高い信仰者であり、いわば敬虔なクリスチャンでした。

そのような家庭こそ、御使いが訪れることのできる場所なのです。

今日、私たちに御使いの訪れがほとんどないのはなぜでしょうか？

——その理由を私はこう思います。

クリスチャンと名乗りながら、夜遅くまでランプに興じ、俗っぽい雑誌を読み、冷蔵庫にはビールを置いている。

だから御使いたちは来られないのです。

油と水は混ざらないのです。

兄弟姉妹よ、私は昔ながらの素朴な説教者にすぎません。

田舎の“ササフラスの木陰”のような、古風な、聖霊に満たされた二度目に生まれた伝道者です。

そして私は昔ながらの食事が好きです——とうもろこしパンにザワークラウト、じゃがいもに豆。

それはアイスクリームのような洒落たものではありませんが、骨身にしみ込み、困難な時代を生き抜く力を与えてくれます。

同じように、私は昔ながらの聖霊による救いを信じています。

それは人の心をきよめる救いです——そして私はそれ以外に語るべきことを知りません。

ですから、こう祈りましょう。

神がその聖霊を、今ここに注いでくださるように。

神が古き良き時代のように、力を雨のように注いでくださるように。

御使いたちは、あの時も——名の知れた敬虔な家庭に訪れたのです。

33 さて、ある日のこと。

ザカリヤは祭司として神殿に仕え、香をたく務めについていました。

その時です——香をたいている彼の右側に、神の御使いガブリエルが現れ、こう告げたのです。

「ザカリヤよ……。あなたが神殿での務めの日々を終えて家に帰れば、妻は子を宿し、出産するだろう。」

しかし彼の妻はすでに年老いていました。

ご覧ください——神はいつも人間の目からは「あり得ない」と思えるものを用いて、御業を行われるのです。

誰が思うでしょうか？

読み書きさえおぼつかない田舎者を選び、伝道者にするなんて。

けれども神はそうにされるのです。

イエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネを選ばれたとき、聖書はこう言っています。

彼らは無学で無知な者たちであったと。

主は学者を探されたのではありません。

油で汚れた魚の前掛けを身につけた一人の漁師を見出され、その人を聖徒とし、神の器とされました。

そしてその彼に**御国の鍵**をお与えになったのです。

アーメン。

これこそ、神のなさり方なのです。

人間から見れば「馬鹿げたこと」を通して、神は偉大な御業を現されるのです。

34 しばらく前、ある人がこう言いました――

「もし本当にそのような賜物が与えられたのなら、ローマの教皇が必ず知っているはずだ。」

――ここにおられるカトリックの友人の皆さん、どうぞ誤解しないでください。神の祝福が皆さんにありますように。

しかし、その言葉はこう言うのと同じです――カヤパが「生まれたのがキリストだ」と知っていた、と。

神はそのような大きな組織や権威の中で働かれるのではありません。

神は貧しい者、へりくだった者のところに来られ、

「ないもの」を用いて「あるもの」を実現されるのです。

聖書も言います――この愚かに見える説教によって、強い者や知恵ある者を打ち砕くのだと。

神はいつも、最も低いものを用いて、それを高く引き上げられるのです。

もしあの使徒たちが「私たちは教育を受け、知恵があり、学位も持っている」と言えたのなら、彼らは自分を誇ることができたでしょう。

けれども彼らは無学で無知な人々でした。

しかし神は「ないもの」を取り、それを「あるもの」とされたのです。

ハレルヤ!

ああ、このことを思うと私は心から喜びます。

なぜなら――これで誰にでもチャンスがあると分かるからです。

35 「ちょっと待ってください、伝道者さん。パウロは学のある人だったではありませんか。」

――その通りです。

けれどもパウロは、自分が知っていたすべてのことを忘れ去らなければなりませんでした。

キリストを知るために、彼は毎日、自分に死ぬ必要があったのです。

そうです、それが真理です。

そしてまさにそこに、今日の世界、今日の教会の失敗があるのです。

私たちは講壇に立たせる者を選ぶとき――皆さんが牧師を選ぶとき――

できる限り「最も賢く、最も新しく、神学校を出たばかりの者」を探し求めています。

けれども、それが時に最悪の選択になることがあるのです。

今、私たちに本当に必要なのは――

神との経験を持ち、斧を木の根元に振り下ろし、木っ端がどこに飛び散ろうとも気にせず、純粋な福音を力強く説き切る人です。

たとえ教会から追い出されようとも、真理を語り続ける人です。

36 しばらく前、ある人が私にこう言いました。

「先生、もし私がそんな説教をしたら、聞いているのは四つの壁だけになってしまいますよ。」

私は答えました。

「たとえコンクリートの壁に向かってでも、**神の真理**を語れる方がましです。

神の恵みを受けながら、たとえ食べ物ソーダクラッカーと川の水だけであっても、

それでも真理を説く方が、三度三度フライドチキンを食べ、牧師らしい襟を正して立ちながら、自分でも偽りだと知っていることを説くより、はるかに幸いなのです。」

——アーメン！ その通りです。

これはただの言葉ではなく、真理です。

神の御霊よ……！

今、私たちに必要なのは、**昔ながらの聖パウロのリバイバル**、

そして再び教会のただ中に聖書的な聖霊が戻り、神の光として輝くことなのです。

37 その祭司ザカリヤは、祭壇の前に立ち、いけにえをささげ、祈りをささげていました。

義しい人であり、神を敬う人でした。

するとその右側に、偉大な御使い——大天使ガブリエルが現れたのです。

神は普段、小さな御使いたちを遣わされます。

けれども、キリストの最初の御降誕を告げたのはガブリエルでした。

そしてまた、キリストの再臨を告げるのもガブリエルなのです。

その通りです。神の大天使が、再び主の再臨を告げるのです。

さて、ここに注目してください——なんと美しい場面でしょう。

ガブリエルはザカリヤに告げました。

「あなたが務めを終えて家に帰れば、妻は子を宿し、男の子を産むだろう。」

しかし、この学識あるザカリヤは答えました。

「そんなことがどうして起こり得ましょうか。私の妻はすでに年老い、十年、十五年も閉経を過ぎています。」

けれども見てください——サラはどうでしたか？

彼女は閉経を過ぎて四十年も経っていたのです。

また、ハナもそうでした。

ザカリヤには、御言葉の中に十分な「先例」が与えられていたのです。

聖書を読めば、その神が真実であると知ることができたはずでした。

けれども彼はそれを読んではいったものの、「その時代の神」と「今の神」が同じお方であることに、適用できなかったのです。

そして今日の問題も、まさにそこにあります。

「奇跡の時代は過ぎた」と人々は考えています。

しかし私たちは見落としているのです。

昔も今も、そして永遠に、神は同じ神であられるということを。

38 ユダヤ人たちは、いかに簡単にイエスを拒んだことでしょうか。

彼らの父祖は紅海を渡り、乾いた地を歩いたのです。

数々の奇跡とするしを見ながらも、それが同じ神の御業であると信じなかったのです。

——そして今日も同じことが起こっています。

神学や教育が、昔ながらの「悔い改めの祈りの場」に取って代わってしまいました。

かつては「悔い改めの席」が教会にあったのです。

ところが今では、それを地下にしまい込み、もう使わなくなってしまいました。

それは事実です。

そして、かつて祭壇の上で燃えていた火も——今ではストーブの中に入れてしまいました。

今、私たちに必要なのは何でしょうか……？

「ブラナム兄弟、それでは狂信的になってしまうのでは？ “異常な火”が起こるのでは？」

——そう言う人がいます。

しかし私は、火がまったくないよりは、多少の“異常な火”がある方が良いと信じます。

もちろんです！

私は少しの狂信には耐えられます。

けれども、氷のように冷たく、硬直し、形式ばかりで不敬虔なもの——その方がはるかに恐ろしいのです。

神がどうしてそのような場所に臨まれるのでしょうか？

ある教会に入ってみると、霊的な温度計は零下百度。

誰かが「アーメン！」と声をあげると、みんなが首を伸ばして、誰が言ったのか見回す始末。

そして説教者がこう言います——

「私の説教を邪魔しないでくれ。」

39 昔のことですが、ケンタッキーに一人の年配の婦人がいました。

その息子はインディアナに出てきて、大きく立派な教会に入会しました。

それは私の所属する教会ではなく、メソジスト教会でした。私はバプテストでしたから。

彼はメソジスト教会に行ったのです。

ところがその教会は、冷たく形式ばかりの、いわば「堅苦しい教会」でした。

一方、彼の母は昔ながらの“火のついた”メソジスト教会で育った人でした。

ある日曜日の朝、その母親は息子たちが通っているその教会に出かけて行きました。

彼女が入ろうとすると——なんと、入口にいた案内役の男は彼女を中に入れてがりませんでした。

彼女は、首の詰まった小さな古風なキャリコのワンピース、あるいはギンガムの服を着て、古びたレースアップの靴を履き、長袖のブラウスで身を包み、まるで田舎の“おかあさん”そのものの姿で、ちょこちょこと礼拝堂へ歩いて来たのです。

すると、そのドアマンは後ろを振り返って彼女を見て、まるで「一体あんたは何者なんだ?」と言わんばかりの視線を投げかけました。

そのため息子はひどく恥ずかしい思いをしたのです。

——でも兄弟姉妹よ、もしあなたにそのようなお母さんがいるのなら、神に感謝すべきです!

今、私たちに必要なのは、まさにあのような昔ながらの信仰深い母親たちなのです。

40 彼女は教会に行けたことが嬉しくてたまりませんでした。

席に座り、礼拝が始まりました。

説教者が「イエス・キリストの血」について語ったとき、

彼女は思わず声を上げました。

「アーメン!」

すると会衆は首を伸ばし、まるで鶴のように周りを見渡して、

「一体誰が言ったのだろうか?」と探し始めました。

その瞬間、説教者は説教の筋を忘れ、

「んん…ええと…んん…」と口ごもってしまいました。

彼女は自分が場違いだとは夢にも思っていない。

ただ純粹に、御言葉に心から応答していただけでした。

皆さん、よく聞いてください。

彼女の名前は、この世の「だれそれ名鑑(フーズ・フー)」のような本には載っていなかったかもしれません。

けれども——彼女の名は「子羊のいのちの書」に記されていたのです。

私は、この世のどんな名誉ある名簿に載るよりも、

天にある「子羊のいのちの書」に名前があることの方が、はるかに尊いと信じています。

世には「フーズ・フー」と呼ばれる本があり、

億万長者や世界の高位の人々の名前が載っています。

しかし、彼らには彼らの名簿を任せておきましょう。

私たちの名は天に記され、神の「フーズ・フー」に登録されているのです。

たとえ世の人々にとって愚かに見えたとしても——

「子羊のいのちの書」に名前がある、それこそが真実の榮譽です。

その婦人は腕を組み、輝くような笑顔で座っていました。

しばらくして牧師が再び御言葉を語ると、彼女はまた思わず、

「アーメン！」

するとまた会衆は一斉に振り返り——ついに案内係がやって来て、彼女を教会から追い出してしまったのです。

理由は、「牧師の説教を邪魔している」というものでした。

——これこそ「墮落」の見本ではないでしょうか？

ああ、なんという違いでしょう。

まさにそこに、世と信仰との対比が表れているのです。

41 サラは八十代の小さな婦人でしたが、子を産みました。

それなら、なぜハナにはできなかつたのでしょうか？

——いや、ハナにも同じことが起こったのです。

ではエリサベツはどうでしょう？

ところがザカリヤはこう言いました。

「いや、彼女にはできません。年を取りすぎています。」

よく見てください。ここに**神の主権**があります。

御使いは言いました。

「わたしは神の御前に立つガブリエルである。

わたしの言葉は定められた時に必ず成就する。

しかし、あなたがわたしの言葉を疑ったゆえに、子が生まれるその日まで口がきけなくなる。」

ハレルヤ！

神が一度何かを語られ、御命令として地上に送られるなら——

たとえ地獄そのものが爆発しようとも、神の御言葉は決して変わりません。

必ずその通りになるのです。

神がすでに語られた、それだけで正しいのです。

——おお、それで十分です。

神がそう仰せられたなら、私は信じます。

皆さんもそうでしょう？

アーメン！ その通りです。

42 こうしてザカリヤは口がきけなくなり、人々に身振りで合図しました。

人々は彼が幻を見たのだと思いました。

やがて彼は妻のもとに帰り、確かに彼女は身ごもり、六か月の間、自らを隠しました。

その六か月後——同じ御使いが今度はナザレに下ってきました。

そこは小さく、悪名高い町でした。

その日、一人の若い乙女が——おそらくは憂鬱な月曜日の洗濯日——水の壺を頭にのせ、道を歩いて

いました。

彼女はすでに、四人の子を持つ一人の寡夫と婚約していました。

そのとき突然、まばゆい光が彼女の前に閃きました。

光のただ中に、大天使ガブリエルが立っていたのです。

彼は言いました。

「マリヤよ、御機嫌よう。」

——別の言い方をすれば「立ち止まりなさい」ということです。

その呼びかけは乙女を恐れさせました。

皆さんも想像してみてください。そのような天からの挨拶が、どれほど畏れを伴うものか。

「マリヤよ。あなたは女の中で祝福された者。あなたは神から恵みを受けたのです。」

ああ、なんという言葉でしょう！

「あなたは神の恵みを受けたのです。」

御使いは彼女に、これから起こることを告げました。

「あなたは男を知らずして子を宿し、その子を産むであろう。」

マリヤは言いました。

「そのようなことがどうしてあり得ましょうか？」

するとガブリエルは答えました。

「聖霊があなたを覆うのです。聖霊があなたを覆い、あなたの胎のうちにひとつの血の細胞が宿り、それが成長して神の御子となるのです。」

その御名をイエスと呼びなさい。」

43 さて、ここでマリヤ——あの若い乙女と、このかたくなな年老いた祭司とを比べてみてください。

その違いは歴然としています。

ザカリヤには多くの前例がありました。

年を越えた婦人が子を宿した例を、彼は聖書で幾度も目にしていたのです。

自然な形で不可能が可能となった実例を、彼は十分に知っていたのです。

けれどもマリヤには、そのような前例は一つもありませんでした。

彼女が信じなければならなかったのは、処女降誕という、人類史上かつて一度も起こったことのない出来事だったのです。

それでも彼女は疑いませんでした。

「ちょっと待ってください、あの書物にはこう書いてありますか？この先生はどう言っていますか？」

——そんなふうに確認を求めることはしませんでした。

ただ、神の御言葉をそのまま受け入れたのです。

彼女はこう言いました。

「ご覧ください、私は主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」

そして御使いは、エリサベツのことなどを告げた後、彼女のもとを去っていきました。

44 ここで私がマリヤから本当に学びたいと思うことがあります。

彼女は「胎の動きを感じるまで」待ちませんでした。

何か自然の変化や、目に見えるしるしが現れるのを待つこともしませんでした。

彼女はただ——神の御言葉をそのまま受け取り、

「御使いが言ったのだから、その通りになる」と信じ、

まだ何の結果も現れる前から、神をあがめ、証し始めたのです。

マリヤはそれが神の御言葉であると信じました。

神が語られたのだから、必ず成し遂げられる——そう信じたのです。

だからこそ、彼女は神の御言葉をそのまま受け入れたのです。

ああ、もし今日、私たち男も女も、ただシンプルにそうできたなら……!

「この足が動くかどうか試してから信じよう」

「この腕が上がるかどうか確認してから信じよう」

「このガンが消えたか、心臓の病が良くなったか、それを見てから信じよう」

——そんなふう待つ必要はありません。

ただ、神の御言葉をそのまま受け取り、

「神よ、あなたがそう仰せられたのだから、必ず成就します!」と喜び始めればよいのです。

信じるとき、心の態度はすでに変えられ、喜びがあふれます。

そうです。マリヤは確信できるまで待ちませんでした。

いいえ——彼女は最初から信じていたのです。

45 それからマリヤは、もう一つの知らせを聞きました。

彼女のいともまた子を宿している——その知らせです。

するとマリヤはすぐさまユダの地方へと出かけ、いとこと共に喜び合うために行ったのです。

兄弟姉妹よ、多くの人が「救われました」と言いながら、

ただ座り込んで、「誰にも言っていません」と言います。

——それでは本当に救われたとは言えません。

それは頭の中でちよつとした感情の変化があっただけかもしれません。

けれども、もしあなたが昔ながらの方法で本当に救われたなら——

神があなたの心に入れ、新しい人に造り変えられたなら——

もうじつとしていることなどできません!

世界中の人に知らせたくて仕方がないのです。

あなたは語らずにはいられないのです。

46 考えてみてください。ピリポや、そして聖書が「聖霊に満たされた人」と記すステパノのことを。

どうやって彼を止めることができたでしょうか？

彼はまるで——乾いた大地に風が吹きつける日に燃え広がる家の火事のようなものでした。

誰も消すことなどできません！

唯一彼を止める方法は——殺すことしかなかったのです。

それほど彼は聖霊に満たされていました。

彼は説教者ではありませんでした。

ただの執事にすぎませんでした。

けれども街に出ては証をし、神をあがめ、止まることができなかったのです。

聖霊が彼を完全に包み込み、彼はもはや自分自身のものではありませんでした。

彼は神の目を通してだけ見て、神の見るものだけを見、神の語られることだけに従って行動していたのです。

——ああ、主よ！

もし今日、私たちがそのようなリバイバルを持つことができたなら！

全ての束縛は打ち砕かれ、アメリカは本当に神のもとに立ち返ることでしょう。

それは、人々がもはや自分の思いを頼りにせず、自分の神学を振りかざすことをやめ、

ただ神の御言葉だけを受け取り、それに従って生きる時に起こるのです。

皆さん、それこそが今、私たちに必要なことだと信じませんか？

47 こうしてマリヤはユダの山地へと急ぎ登り、証をし、

イエスのことを語りに行きました。

エリサベツは、丘の道をこちらに歩いてくるマリヤを見つけました。

彼女は愛らしく、そして従妹を心から愛していました。

そこで急いで走り出て、マリヤを迎えに行きました。

エリサベツは六か月の間、自らを隠していたのです。

けれどもマリヤの姿を見たとき、彼女は大喜びで走り寄り、

腕を回して抱きしめ、名を呼びながら喜びにあふれました。

そして言いました。

「あなたが母となると聞いて、本当に嬉しいです。」

マリヤは答えました。

「はい、その通りです。」

するとエリサベツは続けました。

「私は嬉しいけれど、少し不安なのです。」

もう六か月になるのに、胎の子が動かないのです……。

異常なのです。」

ご覧ください——神はいつも人の目には「あり得ない」ことを用いられるのです。

小さなヨハネは六か月の間、生きている気配すらありませんでした。

そのときマリヤが言いました。

「私もあなたに良い知らせを持ってきました。

聖霊が私のところにも現れ、男を知らずして子を宿し、

その名をイエスと呼ぶようにと告げられたのです。」

そして——人の唇から「イエス」という御名が初めて語られたその瞬間、

胎の中の小さなヨハネは聖霊に満たされ、喜びのあまり母の胎の中で跳ね回ったのです！

その通りです。

もし人の唇から語られたイエス・キリストの御名が、死んだような胎児を生かしたのなら——

神の御霊によって新しく生まれた教会に対しては、なおさらどれほどの力を持つべきでしょうか？

御名はすべての悪霊を縛り、すべての病を癒すはずです。

アーメン、その通りです！

新しく生まれたと告白する者たちに対して、この御名はいったいどれほどの力を発揮すべきでしょうか？

48 小さなヨハネは、母の胎の中で六か月の間ただ細胞が形づくられていただけで、命の気配はありませんでした。

しかし聖書はこう記しています——

「バプテスマのヨハネは、母の胎から聖霊に満たされていた。」

アーメン！

ああ、なんとということでしょう。

「母の胎から聖霊に満たされて生まれた」——私はこの表現が大好きです。

そして彼は胎の中で、喜びのあまり跳ね、飛び跳ね始めたのです。

皆さんご存じでしょう——聖霊があなたに臨むとき、必ず何かが動き出すのです！

赤ん坊が生まれるときもそうです。

ある人が言いました。「私は新しく生まれ変わりました。」

—ならば、声にも、姿にも、それが現れるはずです!

49 さて、赤ちゃんが生まれ、その赤ちゃんがまだ生まれている場合、あなたはその赤ちゃんの問題が何であるか知っていますか? 赤ちゃんは死んで生まれました。そして、それが今日これらの正式な教会にまだ生まれている多くの子供たちの問題です。あなたは死んで生まれました。あなたは受胎しましたが、命を受けたことはありません。そのような赤ちゃんをどうするかは、かかとで彼を拾い上げ、後部プロタプラスマ刺激を少し与えることです。私はあなたに言います:彼はすぐに生き返ります。

そして、今日教会が必要としているものがあるとすれば、古き良き時代の福音、神の力を注いでいる神の手によってパンキングされている聖霊です。それは教会を生き生きとさせるでしょう。アーメン。それはフラットに見えるかもしれませんが、それは真実です。はい、先生。あなたは彼を少しパンキングすると、彼は泣き叫び声をあげます。

ああ、私の。彼女がそこにいたとき、私はマーサ、またはメアリーを見ることができます、そしてエリザベスは彼女に手を伸ばし、彼女をつかんで抱きしめに出かけました。なんて素晴らしい時でしょう。

50 今日、私たちはお互いに対するそのような感情を失ったことをご存知でしょう。そうじゃないですか? 私はマイアミを決して忘れません。その女性はここにいます、私はあなたの気持ちを傷つけるつもりはありません。そこに素晴らしい大きな場所を持たせてくれる女性がいます。彼女はそうあるべきだった……彼らは何ですか? 公爵夫人? 公爵、公爵夫人、またはそのようなある種の女性。そして、私は会議をしていました、そして彼らは小さな場所でそれをしました。彼らは言いました...ハックスター兄弟は「ブラナム兄弟」と言い、「公爵夫人はあなたに会いたがっています」と言いました。

私は「誰?」と言いました。

彼は「公爵夫人」と言いました

そして私は「彼女は誰ですか?」と言いました。

彼は、「なぜ、彼女はこのあたりで最高の女性だ」と言いました。

私は「ああ、彼女は生まれ変わったの?」と言いました。

「まあ、わかりません」と言いました。

そして私は言いました、「まあ、彼女はここにいる他の人々よりも何が多いのですか?」

「まあ、あなたがホールの後ろを通り抜けるとき、ただ彼女に話しかけてください。」と言いました。

私は「大丈夫」と言いました。

51 そして、私がそこに戻ったとき、あなたがアスピリンの箱に入れることができるのに十分な服を着た大きな大きな女性が立っていました。そして、その女性は、彼女が持っていました...そして、貧しい子供たちを養うのに十分な宝石(今、それは...私はからかっていません。私は説教壇にいたので、事実を述べています。)、そしてアフリカへの私の宣教師の旅を二度支払いました。そして、彼女はそのようにそれらを差し出す棒の上に彼女の手に一組の斑点を持っていました。さて、あなたは女性が彼らを通して眼鏡をそれほど遠くまで見ることができず、そのようにそれを差し出していることを知っています。彼女は手に宝石でいっぱいでした。そして彼女は[テープの空白の場所]に到着し、「あなたに会えてとても魅力的です」と言いました。このように手を挙げた。

私は彼女の大きな太った手[不明瞭な言葉]について手を差し伸べました。私は「彼女をここに降ろして、また会ったときにあなたのことを知っているように」と言いました。

52 今日私たちが必要としているのは、兄弟…。犬を飼いすぎる人がいるので、私たちはそれをストリート表現で呼んでいます。とにかく6フィートの汚れ以外は何ですか? 神はあなたを憐れんでくださいます。復活したイエス・キリストの力と霊から生まれていないのなら、私はあなたがどのように服を着ることができるか、どのように行動することができるか、どのような家に住むことができるか、どのような車を運転できるかは気にしません、あなたは迷子になり、マーティンがその箱に行くのと同じくらい確実に地獄に行くでしょう。アーメン。それが真実です。ああ、私の。

ここで少し前に妻と私は町を下っていました。通りに若い女性がいました。彼女は言いました...人々はただ愛から逃げています。そして、それがあなたが持っている主なものです。通りを下って、私は乗っていました...私の妻。何人かの女性は、「こんにちは、ブラナム兄弟姉妹」と言いました。

私は「どうしますか?」と言いました。そして、私はそのように彼女に言い、彼女に頭を下げて、「どうしますか?」と言いました。通りを走っていると、私は「彼女と話しましたか?」と言いました。

彼女は「はい」と言いました。

私は「聞き取りづらくなっているに違いない」と言いました。私は「あなたの言うことを聞いたことがない」と言いました。

彼女は、「ああ、私は微笑んだ」と言いました。

さて、私は言いました。「[不明瞭な言葉]に話す代わりに少しばかげた笑みを浮かべます。私はそれが好きではありません。

53 [テープ上の空白のスポット] ...古き良き聖霊がリバイバルを送りました、人々は神の言葉を信じるように戻ってきました、神は昔のように私たちの世話をしてくれるでしょう、彼は私たちの世話をしてくれるでしょう今日。あなたはそれを信じますか? 神が私たちの面倒を見てくださいます。今日私たちが必要としているのは、弟子たちのような別の補充です。3日間...

10年前の経験をテストしたり、信頼したりしようとしている人もいます。大丈夫ですが、今日はどうですか? 今日必要です。今日は確かに満ち足りた日です。弟子たちは聖霊を受けてから約3、4日後に戻って一つの一致を得て、聖霊が彼らが置かれている建物を揺さぶるまで、一つの一致で再び祈り始めました。アーメン。必要なもの。

54 ああ、私の。あなたはここでこのすべての尊厳から逃れることができます。私はあなたに尊厳を証明することができます、悪魔はそれのあらゆる部分のパピーです。当初、彼はマイケルが持っていたものよりも魅力的な何か、そしてすべてのものを望んでいました。彼は行き、彼に王国を設立しました、そしてもし彼がそこにとどまっていたなら、それが天を汚染したものであり、神は彼を追い出しました。それ以来、彼は教会を威厳を持っています。それは真実です。神は尊厳にとどまりません。彼は単純な誠実な心の中に住んでいます。ハレルヤ。

兄弟、私は少し前にここで私がたまたまミルトンバプテスト教会の牧師であったことを少し古いバプテスト教会で説教していることに気づき始めました。そして、私は夜に家に帰っていました。私が見たところ、少し古い杉の茂みの中にナイチンゲールが置かれていました。私は約20マイル離れたところにいる何人かの人々と一緒にいたでしょう。私は一人になるために毎晩車で出かけます。そして森の中で起きて、時々祈る[不明瞭な言葉。[テープ上の空白のスポット]

55 朝起きて、すべてのロビンが叫び声を上げているのを聞いたことがありますか。すべての小鳥は、日が暮れるとすぐに聞こえます。私たちは一晩中騒ぎ、日曜日の1時頃まで起き上がれず、教会に行くことさえできません。周りに座って、彼らは彼の小さな頭を空中に突き刺し、歌い、歌い、歌います。そのうちの1人が高血圧になっているという話は聞いたことがありません。松葉杖で見たことがありませんか? 神が彼の面倒を見てくれます。そうです。彼らはそれを信頼し、すべてを神に託し、先に進みます。

今、私はナイチンゲールを勉強しました。そして、嵐の雲がやってくる夜があることに気づきました。彼は落ち着くでしょう。それから彼は一斉に再び解き放ち、ただ彼の声の一番上まで歌いました。「なんだろう?」と思いました。

さて、科学は私たちに、つまり彼らは天を見上げ、星や光が見えない場合は悲しくなり、歌わないことを告げています。しかし、彼が1つの星に目を向けることができれば、彼は太陽がどこかで輝いていることを知っています。それで彼はそれが次々と壊れるのを知っているので、彼はただ彼の声の一番上まで歌います。

そして、私は「ああ、神様」と思いました。そうです。もし私がそれを持っている何人かの人々の中に入ることができて、あなたが時々「アーメン」を少しくしむなら、聖霊の力がまだどこかに存在していることを知らせてください。そうです。

56 今日外出できて、今夜外に出て、見上げてその大きくて大きな明るい星を見ることができたら、私はこう

言います。「星、何があなたをそのように輝かせますか？あなたはとてもきれいです。何があなたを輝かせ、この地球上に光を当てさせるのですか？」彼が話すことができれば、彼は言わないでしょう...彼は言うでしょう、「ブラナム兄弟、それは私が輝いているのではありません。それは私を照らしている太陽です。それが私を輝かせるものです。」そしてそれが人々を作るものです....

医者は私に言わなかった一しばらく前に、叫び、神を賛美し、彼らがとても幸せで興奮しているように行動しようとしたこれらの人々は言った。なぜ、兄弟、私たちは興奮したほうがいいのです、そう思いませんか？興奮しました。

そして言いました、「今、いや、そうではありません。そうではありません。それは彼らではありません。神の御霊が彼らを照らしているからです。」

57 昔、私はいつも通りかかって飲んでいて古い噴水から飲んでいました。そして、それは常に泡、泡、泡、泡、泡でした。「こんなに泡立つのが何がそんなに幸せなの？」と思いました。「鹿が飲むからかもしれない」と思いました。いいえ。「クマが飲むからです。」いいえ。「たぶん私が飲んだから」いいえ。

もし彼が話すことができれば、彼はこう言うでしょう。「ブラナム兄弟、それは私が泡立っているのではありません。それは私の背後にある何か私を押して、私を泡立たせています。」そして、それは神の御霊から生まれたすべての信者にとってです。彼の後ろに何か彼を押し出し、あなたから泡立ち、水の泉があり、永遠の命へと泡立っています。それが今日の教会全体が必要としているのは、古き良き、新鮮な泡立ちです。はい、先生。

58 子供の頃、バブリングのことを考えていました。ママはかつて...私は古いやかんの下にくつつくためにレールや物を切り、裏庭や森の庭で洗い流さなければなりません。私はあなたがそれをしたことはないと思います、木の庭にある大きな古い三本足のやかん。そしてママは自家製の石鹸で服をそこに入れました。そして、私は外に出て木を切り、その下で火をつけなければならないでしょう。ああ、私の。私は、「なに……あの火の多くは？どのように...なぜそんなに多くの木材を燃やすのですか？」

彼女は、「あなたがビジネスをすることができるので、それは熱くならない」と言いました。そして、それは教会のやり方です。それは本当に熱くなる必要があります、そうでなければあなたは商売をすることができません。あなたは何かを得なければなりません。

彼女は缶詰の時間にそこにあった別の古いやかんを持っていったでしょう。そして、彼女はこれらの小さな黄色いトマトでジャムを作ることができます。寒い朝に熱いビスケットの間に入れれば、今はうまくいくでしょう。

59 それで彼女はそれをそこに入れました、そして私は彼女が砂糖を注ぐことに気づきました。そして私は木を切ってその周りに積み上げました。そして、私は...ああ、それはとても暑いです。そこから蒸気が出てくるでしょう。私は「ママ、あんなに暑くないの？」と言いました。

彼女は「いや、もう少し木を切って」と言いました。

私は「まあ、ママ、蒸気を見て」と言いました。

彼女は言いました。「それは泡立ち、飛び出ることに行かなければなりません。そして、それが本物になると、本物の暑さはポップ、ポップ、ポップ、ポップになり、そのように、それが調理しているときに保存されます。」彼女は、「それが砂糖を混ぜて甘くするものです」と言いました。そして、「あなたがそれを弾けるようになるまで、それは缶に適合しません。」と言いました。

「そうです。昔ながらの集会のとき...私たちがしなければならないことは、証がポップ、ポップ、ポップ、ポップ、バブル、バブル、バブル、バブル、そのようにひっくり返るまで、彼女が十分に熱くなるまで福音の森に注ぐことです。彼女は缶詰に慣れ、神の王国に封印されています。アーメン。

あなたは私が狂っていると思いますね？まあ、私がそうなら、私は幸せです。ただ私を放っておいてください。ほら、今は元気です。私は他の方法よりもこの方法の方が気分が良いです。分かりますか？今、私は興奮していません。私は自分がどこにいるかを正しく知っています。分かりますか？

60 さて、ああ、古き良き時代の集会...ここでしばらく前に私はインディアナ州のゲイリーにいました。私はそこで間近で会議を開いていました。そして、彼らは私を彼らの大きな製鉄所に連れて行ってくれました。

そしてその男は私を歩き回っていました。彼は言った、「説教者、私はあなたに私のこの場所を見せたいのです。」

私は「大丈夫」と言いました。彼らはそこの席のようにたくさんのベンチを持っていました。そして、すべての人は旋盤などで働いていました。そしてしばらくすると、小さな笛が鳴りました。そして、小さな笛が吹いたとき、なぜすべての人々がエプロンを外し始めるのか、それは5分間の笛でした。そして、彼らはすべての削りくずを床の真ん中に一掃しました。そして、あなたが最初に知っていること、それから別の笛が吹いた。みんな出かけました。

61 彼はそこに立っていて、私たちは彼ら全員が出て行くのを見ました。彼は話しました。私は「あなたは何人の男性が働いているか」と言いました。

彼は言った、「ブラナム牧師、私たちがそれをどのようにきれいにするかをお見せします。」

私は「大丈夫です」と言いました。彼はあそこを歩いて、ボタンを押しました。そして、私は「Rrrrrrrrrrr」と言う何かをずっと前に聞いた。私は「それは何ですか?」と言いました。

彼は「ただ見て見てください」と言いました。そして、あなたが最初に知っていることは、ここに大きな大きな磁石が通り過ぎて、このように落下し、高いところから、シュートを降りて、速度を上げて降りてきます。それはその床に沿って真下に行きました、そして、それらのすべての削りくず、事実上それらのすべては、その磁石に向かってすぐに跳び上がり、すぐに出て行き、そしてそこに行きました。そして、彼らはその物を消磁し、それのすべてのビットが再び成形されるためにそこにある大きな大きなキューポラに落ちました。

ええと。私は「主を賛美しなさい」と言いました。

彼は「どうしたの?」と言いました。

そして私は「ああ、ああ、何もない」と言いました。私は「ただ考えていた」と言いました。

彼は「あなたは行ったことがあるに違いない」と言いました。

そして私は「あなたに何か聞きたい」と言いました。私は「どうして全部の削りくずが上がらなかったの?」と言いました。

そして彼は、「そうですね、ブラナム牧師」と言いました、「それらのいくつか、その磁石はかかりません」。「それはそれに磁化されていないので、それは磁石に行くことができません。それらはアルミニウムです。それらのアルミニウムの削りくずはその磁石を拾うことはありません。」

私は「ハレルヤ」と言いました。

彼は「どうしたの?」と言いました。

私は言いました、「それはどうしたのか……そこに鉄が敷かれています。なぜ上がらなかったのですか?」

「ブラナム牧師、それはボルトで止められました。」と言いました。

私は「神に栄光を」と言いました。

彼は「どうしたの?」と言いました。

私は言いました「私は考えています天国の向こうに戻る道は、神の子と呼ばれる大きな磁石です。ここには磁化されている人々がいます。」ああ、あなたは削りくずか教会のメンバーかもしれませんが、あなたが復活の力によって磁化され、神の御子によって彼の力に従わない限り、兄弟です...

62 ある日、神がボタンを押すと、世俗的な欲望と喜びを持ったこれらの束縛された人々の何人かがここに残され、冷たく正式な教会員がそこに横たわります。しかし、新たに生まれた人々、キリストにある彼らは、神が復活の時に彼と一緒に連れて来られ、大きな成形ポットの向こう側に行きます。そして、これらの古くて虚弱な体はその中で成形され、彼自身の輝かしい似姿になります。

なぜそれは男を叫ばせないのですか? なぜ、それはあなたをバラバラにするでしょう。そうです。私は

どれほど栄光があるかを考えました。人々がどのように神から離れたか。

63 私はこれらに気づきました...私たちのテキストに戻って、これらの2人の女の子がどのようにそこに立っているか、女性が話しているか。そしてそれで...彼女は数日滞在しました、そしてこの男はどんな人になるのでしょうか、バプテストのジョン？ 彼が生まれたとき...ご存知のように、彼は墓地や神学校に出かけることはありませんでした。そして...すみません。そして彼は決してそこに出かけませんでした、しかし神は荒野で彼を引き継いだのです。なんて神学校で、神がこれまでに持っていた中で最高のものでしょう。

彼は神学を学ばないように神学校に行きましたが、神が彼に対処できる膝病学を学んだのです。そして、その人は彼が8歳の頃から30歳になるまでそこにとどまりました。

当時、バプテストのヨハネがユデアの荒野で「天国を悔い改めよう」と説教していました。これは、荒野で泣いている人の声である預言者イザヤについて語られた人です。彼はそこにいました。

兄弟、彼はタキシードの服を着ていませんでした。彼は着ていませんでした—彼の首輪は向きを変えました。しかし、彼は古い羊皮を彼の周りに掛けていました、しかし彼は悔い改めを説き、そして彼はキリストを説教しました。彼の素朴さが周りのすべての地域をかき立てていたけれども。私たちバプテスト教会、そしてあなた方の残りすべてが今日必要としているのは、もう一人のバプテストのヨハネです。

64 彼は悔い改めを説いた。彼はイエス・キリストを説教しました。その単純さですべての地域を引き込みましたが。神の力は世界がこれまでに持っていた最大のドロ잉カードでした。そこで彼は説教に来ます、どれほど素晴らしくそしてどれほど素晴らしいか。なんて本物なのか、彼が現れた神の本物の人だったのでしょうか。そして彼は説教しました。それからキリストがその場に来ました。

それから彼は、「私は減少しなければならず、彼は増加しなければならない」と言いました。ジョン、私はそれが好きです。彼は何もないと主張しなかった。彼は、「私—私—私は彼ではない」と言いました。

しかし、イエスは「そうです」と言われました。「そこには、その人ほど偉大な人から生まれた人は一人もいなかった」と言いました。そうです。言った、「とはいえ、天国の中で最も小さいものはヨハネよりも大きいのです。しかし、彼ほど偉大な女性から生まれた男性は今までにないのです。」なぜですか？ 他のすべての預言者は彼について話しましたが、ヨハネは彼を世に紹介しました。「これは……見よ、神の小羊。」彼は彼を世界に紹介しました。彼は預言者の中で最も偉大でした—ヨハネでした。

65 そして、気づいてください。今これを手に入れてほしい。彼らが進むにつれて...今、イエスのミニストリーは素晴らしいものになり始めています。そして彼はラザロの家である家を離れました。そして、彼が去ったとき、悲しみが入りました。そして、あなた方クリスチャンにこれを言わせてください、イエスがあなたの家を去るとき、気をつけてください。悲しみはその道を進んでいます。イエスがあなたの家を去るとき、悲しみはその道を進んでいます。彼が去ると同じように、あなたはトラブルに気がつけます。あなたが罪深い生活、無謀で不注意な生活で彼を追い払うなら、あなたの家への道に悲しみがありません。そうじゃないですか？

さて、注目してください。しかし、この場合、彼は逃げていませんでした。神が彼にビジョンを与えたので彼は去り、彼に去って3日待つように言われました。彼は、主が幻の中で彼を示さない限り、彼は何もしなかったと言いました。「私が父がしているのを見ていること、それが私がしていることです。それ以外は何もありません。」

それで、彼は彼らが3日行くことを知っていました。そして、あなたが最初に知っていることは、彼らは送りました...ラザロは病気になったので、彼らはイエスが来て彼を癒すために送りました。そして彼はそれを無視して続けました。兄弟、私はあなたに言っています:あなたが病気のとときに牧師が来てあなたのために祈るように送って、彼が来なかったなら、あなたは確かにバプテスト教会またはメソジスト教会を去って行き、そして長老派。または、ペンテコストはバプテストかどこかに行きます。はい、先生。いいえ、あなたはそれを我慢できませんでした。

66 それで、彼らは再び彼を呼びに行きました。彼はそれを無視して続けました、なぜなら彼は神の御心がなされなければならないことを知っていたからです。神を愛する彼らにとって、すべてのものは一緒になって善のために働きます。そうじゃないですか？ 神と共にあなたの心を正しく保ちなさい、そうすれば他のすべては大丈夫になります。

さて、彼はもう少し先に進みました。そして、あなたが最初に知っていることは、ラザロが病気になったと

ということです。彼は病気になりました。医者が来ます。彼らは彼とは何もできませんでした。私たちは神話で教えられています、おそらく、それが正しく歴史的であるとは言いません。彼は肺の出血で亡くなりました。大丈夫です。彼が死んだとき、とにかく、彼らは彼を連れ出し、彼を葬りました。彼らは彼の体を防腐処理し、彼を墓に入れました。彼を埋葬するために、今日の東洋にはたくさんあるように、彼らは穴を掘り、その上に岩を置いて死者を埋葬します。

67 それで彼らは彼を墓に入れました、そして彼は続けました...初日が過ぎました。私、あの小さな家はなんて悲しいことでしょう。それから2日目、さらに悪いことに3日目、さらには4日目、すべてはなくなった。そのかわいそうな少し悲しい家族について考えてください。死が家を襲った。それは彼らが今まで見た中で最も悲しい時間でした。死は家にありました。その男はそこにいて、病人を説教して癒し、兄弟が死んで死んでいったときに彼らを断りました。そして、彼らはその人を信じていたでしょう。彼らは彼が神の人であると信じていました。イエスを信じた人は誰でも会堂から出なければならなかったのです、彼らは教会をあきらめました。彼はホーリーローラーでした。

そして、彼らはシナゴグから出なければならませんでした。彼らがここでこれを信じるとすぐに、彼らは彼らを出しました。それでも彼らは心の中で彼が神の御子であることを知っていました。しかし、彼らの神学は彼らを縛っていたので、彼らはそれを受け入れることができませんでした。彼らは彼ら自身の信条と彼ら自身の使徒の信条を持っていました。そのようなナンセンスを聞いたことがありますか？

68 私たちは今日、使徒の信条を得ました。私はそれを聖書に挑戦します。使徒の信条のようなものはありません。聖書に使徒の信条がある場合、それは使徒行伝の中で彼が言ったところにあります。「あなた方全員を悔い改め、あなた方の罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。あなたとあなたの子供たち、遠く離れた子供たち、私たちの神である主が呼ばれる者との約束のために、あなたは聖霊の賜物を受け取るでしょう。」

それは使徒の信条のように聞こえます。「今、私は聖なるローマカトリック教会を信じています。私は聖人の交わりを信じています。」聖人の交わりを信じる人は誰でも霊主義者です。その通りです。聖人は死んでいます。彼らは神の前にいます。神と人の間に仲介者はイエス・キリスト以外にありません。アーメン。そうです。ああ、どうやってあなたは自分自身をすべてねじれさせるのか。私、それは残念です...

69 ほら、私はあなた方のせいにはしたくないのです。それが始まったのは説教壇です。サタンが説教壇に入ったとき、それが国の最悪の事態であることは不思議ではありません。それは真実です。混じりけのない神の言葉、そして神の言葉を説教することに失敗すると、それがするだろうと言ったとおりに正確に生み出されるでしょう。しかし、私たちはそれをすべて説明します。「それはすべて離れています。それは別の日のためです。」

誰かがプラットホームに立って、聖霊のバプテスマ、神の癒しを言っていると想像できますか？それはまた別の日のためですか？それは、凍死する男を紹介し、彼のために火を塗って、「素晴らしい火があります」と言うようなものです。そうだったのです。塗られた火で暖めることはできません。

それはかつての火事でしたが、今の火事はどうですか？聖霊は、最初の時代、2番目の時代、そしてそれ以降、ペンテコストで力を持っていました。この時代はどうですか？彼は今日も同じ聖霊です。もし彼が人々の間で同じ種類の信仰を得ることができれば、同じ力、同じしるし、同じ不思議、同じ奇跡があります。神は変わらない。

70 そこには、何時、暗い時間なのでしょう。彼らがイエスを信じたので、教会は彼らを見つけました。そして、彼は彼らを断ったようです。私、それは暗い時間でした。しかし、最も暗い時間に、イエスがやって来ます。それは通常彼がそれをする方法です。ちょうど最も暗い時間にイエスがやって来ます。

多分それはあなたの最も暗い時間です、姉妹、しかしイエスがやって来ます。多分それはあなたの最も暗い時間です。今週、車椅子でそこに座っている女性がいました。歩いていた。ストレッチャーを使っていた人もいます。世界中のいたるところに何年にもわたって縛られてきた人々がいます。多分それはあなたの心臓の問題、あなたが得た最悪の敵、そして病気を持っているあなたのものです。多分あなたはもう数日生きることができないかもしれませんが、しかしイエスは一緒に来るでしょう。ちょうど最も暗い時間に彼はやって来ます。

71 さて、彼がやって来ると、物事は変わり始めます。リトルマーサ、彼女は一種の拡張性があり、世界中のあらゆるものですが、私は...食べ物とテーブルの準備についてです。しかし、ご存知のように、私は今彼女

が好きです。彼女は、イエスが来るのを聞くとすぐに、ここでイエスに会い始めました。

今、私は彼女が通り過ぎるのを見ます。そして、「ねえ、彼らは私にその聖なるローラーを教えてください...ハハ。ラザロが死んだとき、彼はここにいませんでしたね?ですから、葬儀が終わった後、彼は今町に戻ってきているのがわかります。」彼はちょうど彼らのそばを通り過ぎました。

さて、私はマルタが彼女の心の中にいくつかの聖書を持っていたと信じています。そして、これが彼女が持っていたと思うものです。聖書のシュナマイトの女性が、エリヤが通りかかったとき、彼女は最悪の状態で赤ん坊を産みました。そして、シュナマイトの女性は、赤ちゃんが亡くなったのを見て、こう言いました。預言者のところに行きます。」

そして、彼女はそれが神の代表であることを知っていました。そして、もし彼女が預言者の前に行くことができれば、彼女は神が彼の預言者の中にいることを知っていました。そして、もし彼女がその預言者に行けなかったら、彼女は自分の赤ちゃんがなぜ死んだのかを知るでしょう。彼女は知っているだろう。

72 それで、夫は言いました、「ああ、それは新月でも安息日でもない、そして彼はそこに、カーメル山に上がることはないだろう。」

彼女は「すべてがうまくいくだろう」と言いました。そして彼女は去りました。

そして彼らが入ってきたとき...神は預言者にそれについて何も言われていませんでした。彼はちょうどゲハジに言った、「あのシュナマイトが来た」。彼は言いました、「今、彼女の心は悲しみ、神はそれを私から遠ざけてくれました。彼女に何が問題なのかわかりません。」それで彼は叫びました、「あなたはすべて元気ですか?あなたの夫は大丈夫ですか?子供は大丈夫ですか?」

さて、ここが私が彼女が好きなところでした。彼女は「すべてが順調です」と言いました。それを解決します。赤ん坊は死体、夫はマニアックに叫び、床を上下に走り、彼女の心臓は彼女から飛び出しましたが、「すべては順調です」。私はそれが好きです。それは何でしたか? 彼女はその理由が何であるかを神から知ることができるを知っていた場所の基地にいました。彼女は預言者に駆け寄り、倒れて自分を明らかにしました。

彼女は彼の足をつかみました、コースゲハジは彼女をけいれんさせ、そして彼女の世話をしました、誰もそのようなことをしませんでした。それでエリシャは言いました、「さて、ゲハジ、あなたは私のスタッフを連れて行きます。旅先で誰かと話しに行かないでください、でも私はあなたにコミッションを与えるつもりです。あなたはこのスタッフを赤ちゃんの上に置きに行きます。」

73 そして今の女性は...そして女性がそれを信じていたらそれは大丈夫だったでしょう。そこで、ポールはハンカチのアイデアを思いついたと思います。ゲハジ...エリシャは自分が触れたものが祝福されていることを知っていました。彼女はそれを信じていなかったのも、それは彼女にとってはうまくいきませんでした。いいえ、先生。彼女は神が預言者の中にいることを知っていました。彼女はその棒について知りませんでした。それで彼女は言いました、「あなたの魂が生きるので、私はあなたを離れるつもりはありません。」彼女は彼と一緒にいた。まあ、何もすることはありませんでした、彼のコートを着て、彼女と一緒に連れて行ってください。

そして、彼らはそこを通って出て行き、家に着きました。庭にいるみんなが泣き叫び、その小さな10、12歳の男の子がベッドに横たわっているのを見るのが想像できます。そして、私はあなたに気づいてほしい: 彼女は彼を預言者の部屋に連れて行き、彼を連れて行くのに良い場所で、彼を彼のベッドに横たえた。

それで、古いエリシャはそのすべての混乱と騒ぎの中で歩きました。彼はそこに入って、床を上下に歩き、死んだ小さな赤ちゃんの上に体を置きました。それは7回くしゃくしゃになり、生き返りました。赤ちゃんを連れて行きました。

74 さて、間違いなく、マリア、またはマルタがその話を讀んだこと、そして彼女は神が彼の預言者の中にいるのか、確かに彼が彼の息子の中にいるのかを知っていました。それで、彼女は彼女が神の息子にたどり着くことができるかどうかを知っていました、彼女はなぜその赤ん坊または彼女の兄弟が連れて行かれたのかを知っているでしょう。それで彼女は彼のところに行きました。

さて、彼女が.....彼女は彼を叱り、彼を非難し、こう言う権利があるように見えました。「なぜあなたは特定のことをしたのですか? 私たちがあなたに電話したとき、なぜあなたは来なかったのですか?」 しかし、彼

女が彼に着いたとき、彼女は彼の足元に倒れ、「主よ、あなたがここにいたら、私の兄弟は死ななかつたでしょう」と言いました。彼女は決して彼を叱りませんでした、「なぜあなたは来なかつたのか、これ、あれ、または……」と言ったのです。もし彼女が来たら、奇跡は起こらなかつたでしょう。

75 それは...に対するあなたの態度です。神の神の働きに対するあなたのアプローチは、あなたがそれから何を求めるかを決定します。あなたが来て、「まあ、私は...神に栄光を」と言うなら。そこに立ってチューイングガムを噛んで、こう言います。「私は彼らのホーリーローラーが何をしているのかを見に行きます。何も見えませんでした。」確かに。「私は彼ら[不明瞭な言葉]をマニアックの集まりとして見たことはありません、見ました...」あなたが批判するようになると、悪魔はあなたに批判する何かを与えるでしょう。あなたが良いものを見つけるために来るなら、神はあなたに何か良いものを見せてくださいます。それはあなたが探しているものに依存します。

だから、彼らは来ます。さて、その時私は彼女に会うことができました。彼女は彼に近づき、ひざまずいて言いました、「主よ、あなたがここにいたら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。しかし、今でも、あなたが神に求めるものは何でも、神はそれをあなたに与えるでしょう。」私はそれが好きです。「あなたが神に尋ねること、神はあなたにそれを与えるつもりです。」

76 さて、「主よ、彼は死んでいますが、彼は4日間死んでいます。彼は墮落しています。彼の体は腐っています。皮膚の虫が彼の体を這っています。虫が彼を土の中で食べ尽くしています。私は彼がいなくなったことを知っています。すべての人はその道がなくなることを望んでいますが、今でも、主よ、あなたが神に求めるものは何でも、神はあなたにそれを与えてくださいます。」ああ、私はそれが好きです。「今でも主よ、あなたが神に求めるものは何でも、神はあなたにそれを与えてくださいます。」もしあなたが今日この建物にいる人々が病気で苦しんでいるなら、あなたが症状から気を取り去って神が言われたことに取り掛かるなら、それは今すぐに起こるでしょう。「今でも、主よ。」

ヨナのことを考えています。本当に何らかの症状を持っている人が世界中にいたとしたら、それはヨナでした。そう思いませんか？ その男はナインベへの道を進んでいました。神は彼にナインベに行くように言われました、そして彼はより簡単な道を得るために後退してターシッシュに行きました。

77 そして、そこへ行く道で...後ろ向きの説教者は、なんらかの問題を引き起こします。それが今日の世界の問題です。だから、彼らは...あなたが最初に知っていることは、問題が発生したことです。そしてヨナは言いました、「さて、あなたは私の手と足を縛って、私を海に投げ出してください、すべてが大丈夫になるでしょう。」それで彼らは彼を迎えに行き、海に投げ捨てました。そして、あなたが最初に知っている大きな魚がやって来て彼を飲み込んだのです。先日、誰かと話していました。

彼らは言った、「説教者、あなたは本当にそれを信じますか？あの魚...なぜ」と言いました、「オレンジがクジラの首を下ることができないことを証明できます。」「なぜ、それはできなかつたのか」と言いました。

私は言いました、「しかし、これは神が用意された特別な魚です。わかりますか？これは良いものです。これは全く問題なく簡単に人を飲み込むことができました。」

78 それは、タバナクルに来ていたその話の少女を思い出させます。ああ、彼女はそこに救われて聖霊に満たされました。彼女の小さな顔はただ輝いています。彼女は通りを上っていました、そして、ウティカに住んでいた老人ドーシーは、日曜日に雑草をくわえて立っていて、彼のトマトパッチを掃除していました。この少女は、「イエスは私が知っていることを私を愛してくれている」と歌いながら道を上って来ます。彼女の声の一番上まで歌うだけです。

ドーシー氏は「ねえ、何してるの？」と言いました。

彼女は言いました、「ドーシーさん、どうしますか？」「主を賛美しなさい。私はちょうど聖霊を得ました。」

彼は「ナンセンス」と言いました。言いました、「あなたはどこにいましたか？ビリー・ブランナムはあなたを狂わせるでしょう。」

彼女は「まあ、私はただひどく気分がいい」と言いました。

「そこで腕に何が入っているの？」と言いました。

彼女は「それは私の聖書です」と言いました。

「あなたはそこに魚とクジラ、またはクジラがヨナを飲み込んだ話を信じますか?」と言いました。

彼女は「はい、先生」と言いました。

彼は言った、「クジラがヨナを飲み込んだと信じますか?」

彼女は言いました、「まあ、もしヨナがクジラを飲み込んだと聖書が言っていたら、私はそれを信じるでしょう」分かりますね。それが何であれ。

79 彼女は言いました....彼は「ナンセンス」と言いました。彼は言った、「そのクジラがヨナを飲み込んだという信仰以外の方法でそれをどのように証明するつもりですか?」

「なぜ」と彼女は言いました、「私が天国に着いたら、ヨナに尋ねます。」まさにその通りです。

さて、彼は言いました、「それなら、もしヨナがそこにいないとしたら?」

「それならあなたは彼に尋ねなければならないでしょう」と言いました。彼はまさに地獄にいるでしょう。「あなたは彼に尋ねなければならないでしょう」と言いました。

それは良いことです—それは良い質問です。それは良いことです。「ヨナが天国にいないなら、あなたは彼に尋ねます。彼がいる場所にいるからです。」ああ、そうです、兄弟。

そして、このヨナ、神は彼を投げました—彼が船から投げ出されたならば、そしてこのクジラは彼を飲み込みました。私はそれを信じています。[テープ上の空白のスポット。]

80 あなたはこの海岸沿いに住んでいるか...あなたの金魚を連れて行ってください、その魚が餌をやるとき、彼は獲物を見つけるまで水の中をうろついていきます。それから彼は獲物を見つけると海の底に降り、水泳選手を広げて休憩します。水が深すぎて、彼が海に出ている場合、もちろん彼は頂上に留まります。しかし、彼が一番下にいるとき、彼が獲物をしているとき、彼は一番下に降ります...

さて、このクジラはヨナを飲み込んでいました。そのクジラはなんと直りました。その大きなお腹はすべて後ろ向きの説教者でいっぱいでした。それは胃に何でもするためにたくさんです。そして、ここで彼は海の底にいました。そして、ここにこの説教者がいました、彼の後ろで手を縛られて、後ろ向きに滑っていました。症状について話してください、彼はいくつか持っていました。

81 見てください。そもそも彼は後ずさりしていた。次の場所で彼は嵐の海にいました。彼の手は彼の後ろで結ばれていました。彼はクジラの腹にいて、クジラは海の底にいました。彼がこれを目をそらした場合、それはクジラの腹でした。彼がそのように見た場合、それはクジラの腹でした。彼がどこを見ても、それはクジラの腹でした。症状について話してください、それは今日の午後ここにあなたの方の誰よりも悪い状態です。彼には症状がありました、つまり。

しかし、彼は何と言いましたか? 彼はその嘔吐物をひっくり返し、ひざまずき、海藻を首に巻きつけました。彼はクジラの腹を見ました。彼は言いました、「私はそのクジラの腹を見ることを拒否します。彼らは嘘つきの虚栄心です。」彼は言った、「主よ、もう一度あなたの聖なる神殿に目を向けます。」ハレルヤ。

なに? なぜですか? ソロモンが神殿を捧げると、火の柱が入り、その後ろに落ち着きました。ソロモンは祈った。彼は言った、「もしあなたの民がいつでも困ってこの聖なる場所に目を向けるなら、あなたは天から聞くのです。」

そしてヨナは神がソロモンの祈りを聞いたと信じていました。そして、その年老いたクジラは、彼が属していたナインベで説教者を吐き出すまで、彼の胃でとても病気になりました。そうですか?

82 ええと、もしそのような状況下でヨナが...アーメン。ここにいます。わかりますか? もしヨナがそのような状況下で、後ろに滑って、手を縛られて、クジラの腹の中、荒れ狂う海の上、海の下にいるなら、もし彼がクジラの腹を見ることを拒否し、神がソロモンの祈りを聞いたと信じることができれば、それ以上に今日、あなたと私は、死んで自分の血まみれの衣服を取り、神の右座に立って、私たちの告白にとりなしをしているキリスト・イエスの言うことを聞くべきです。私たちが言うことは彼が成し遂げた、彼は...神はそれを正しくするためにそこにいます。

症状をどれだけ拒否すべきでしょうか? それはナンセンスです。「私は自分の不自由な手を見ませ

ん。私は自分の耳が聞こえない耳については見ません。私はあなたの聖なる神殿、主に目を向けます。そこでは、イエスが神の右に立って、私が真実であると告白することについてとりなしをします。」アーメン。言ってもやるが、私は今、宗教的だと感じている。私はあなたに言います、私はそうします。

83 ほら、ちよつとだけ。急いで、遅くなっています。大丈夫です。これに注意してください。私はそれを見ることができます...マルタ、彼女はイエスに会いに出かけます。彼女は倒れて言った、「もしあなたがここにいたら、私の兄は死ななかつたでしょう。しかし、今でも、あなたが神に求めるものは何でも、神はそれをあなたに与えるでしょう。」

さて、見てください。心に欲望のある女性がいました。彼女は神が彼の代表者に彼女に言われた通りに来ていました、その時彼の代表者は彼の息子でした、今日は聖霊です。大丈夫です。

84 さて、聖霊はみことばの記録をむき出しにするでしょう。それがみことばの記録をむき出しにしていなければ、それはあなたが話している聖霊ではありません。なぜなら聖霊は神のことばを食べているからです。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きるのです。」

さて、ここに心が痛む、すべてが邪魔されている女性がいますが、それでも彼女の魂の中で彼女は静かでした。彼女はいくつかの結果を得ることができると知っていたところで正解しました。彼女は言いました。「もしあなたがここにいたら、私の兄は死ななかつたでしょう。しかし、今でも、あなたが神に求めるものは何でも、神はそれをあなたに与えるでしょう。」

彼は言った、「あなたの兄弟は再び立ち上がるでしょう。」

彼女は言いました、「はい、主よ、私は知っています。彼はいい子だった。彼は終わりの日に一般的な復活で育てます。私は彼がそうすることを知っています—彼は育てます。彼はいい子でした。」ユダヤ人は一般的な復活を信じていました。「彼は終わりの日に育つだろう」と言いました。

さて、イエスを見て、彼の小さなフレームと一緒に引っ張ってください。彼は言いました、「私は復活であり、命です。わたしを信じる者は、まだ死んでも生きるであろう。そして、わたしを信じて生きる者は決して死ぬことはない。」「あなたはこれを信じますか？」と言いました。ああ、私の。

85 質問があります。ここに女性がいます、正しい場所です。歯車はすぐに一緒に来ています。彼女は神の代表のそばに立っています。彼女は心の中に欲望を持っており、適切な人、適切な場所、適切な態度を持っており、彼女は告白しています。「あなたはまさにあなたが言ったことです。あなたはこの世に来ることになっていた神の子です。そして、私はあなたが神に尋ねるものは何でも、あなたが彼の代表であるので、神はあなたにそれを与えると信じています。」兄弟、何かが起こらなければなりません。何かが起こらなければなりません。

「私はあなたが告白していることを正確に信じています。私はそれがあなた自身であると信じています。私はあなたがまさにあなたが言った通りだと信じています。」

彼は言った、「あなたの兄弟は再び立ち上がるでしょう。」そして彼女は復活に言った質問をしました。彼は言いました、「私は復活と命です。わたしを信じる者は、まだ死んでも生きるであろう。そして、わたしを信じて生きる者は決して死ぬことはない。」そして彼は、「どこで...」または「あなたはこれを信じますか？」と言いました。

彼女は言いました、「はい、主よ、私はそれを心から信じています。私はあなたがこの世に来ることになっていた神の子であると信じています。」

「どこに彼を埋めたの？」と言いました。

「さあ、ほら」と言いました。

聖書は「イエスは泣いた」と言っています。

86 私はあなたを叱るつもりはありませんが、ここでしばらく前に、クリスチャンの科学の女性が私に「ブラナム牧師」と言いました、「あなたのメッセージは素晴らしいですが」と言いました、「あなたはイエスを強調しすぎていますキリスト。あなたは彼について自慢しすぎています。」

私は「どうすればいいの？」と言いました。どうすれば彼を自慢しすぎるができるのか知りたいので

す。

彼女は言いました、「まあ、今、見てください。」「あなたは彼をととても神聖なものにしようとします、そしてそのようなすべて、彼が良い人だったとき、彼は教師でした。」と言いました。

私は「彼は神だった」と言いました。

彼女は「彼は神にはなれなかった」と言いました。

私は、「もし彼が神でなければ、彼は世界でこれまでにあった最大の欺瞞者でした」と言いました。そうです。私は「彼は神であるか、何もないかのどちらかでした」と言いました。

87 彼女は「まあ、彼は神ではなかった」と言いました。

私は「彼は神でした」と言いました。

彼女は言いました、「もし私が聖書でそれをあなたに証明したら、あなたはそれを受け入れますか？」

私は言いました、「もし聖書が彼が神ではないと言っていたら、私はそれを信じます。」

彼女は「私はそれを証明できる」と言いました。

私は「大丈夫」と言いました。彼女はこの聖書に言及しました。

彼女は言いました、「イエスがラザロの墓に降りたとき、聖書は『彼は泣いた』と言いました。」

そして私は言いました、「あなたはそれが彼が神ではなかった理由だと思うと私に言うつもりですか？」

言った、「なぜ、確かに彼は泣いた。彼は男だった。」

私は言いました「彼は男でしたしかし、彼は神でもありました。彼は神の人でした。」

88 そして彼女は、「なぜ、彼はそうすることができなかったでしょう」と言いました。

私は「彼はそうだった」と言いました。私は言いました「ほら彼は墓に降りて泣いていたとき、そこに立っていて、青い目から涙をこすり返していました。彼は見て、頭を後ろに振り、向こうを見ました、そして、墓に死んでいた男が横たわりました、彼の魂はどこかに4日間の旅をしました、彼の体は腐りました：鼻は落ちました。手が黒くなり、虫が彼を食い尽くしました。そこに立って、彼の小さなフレームを引き上げ（聖書は私たちが彼に望むべき美しさはないと言っていたので）、彼の小さな自己と一緒に引き上げました。彼は素晴らしい、大きな7フッターではありませんでした。しかし、彼は彼自身を引き寄せました。そして彼は言った、「ラザロ、出て来なさい」。そして、4日間死んでいた男が立ち上がって再び生きました。」私は「それは人間以上のものでした」と言いました。それは神が御子から語られたことでした。神はキリストの中にいて、世界をご自身と和解させました。あなたはそれを信じますか？

89 はい、先生。それは...ある時、彼は山から降りてきて、空腹で、エルサレムに上がって、彼とすべてに大騒ぎしていました。彼は降りてきて何か食べるものを探していました。彼は木に行きました。その木には実がありませんでした。そして、彼は何も見つけることができませんでした。彼は男のように飢えていて、何も食べるものを見つけることができませんでした。

しかしその直後、彼は5匹の小さな魚と2枚のビスケットか何かを取り、5000人に食事を与えました。それは彼が木の上で何か食べるものを探して飢えていたときの人でした、しかしそれらの魚とビスケットを取り、それを壊して5000人を養ったのは神でした。神はキリストの中にあり、世界をご自身と和解させていました。はい、先生。

90 彼はその夜、そのボートに乗った男でした。それが海の小さな瓶の栓のように投げられたとき、1万人の海の悪魔が彼を溺死させると誓ったとき、彼は眠っていました。彼はとても弱かったので、美德は彼から出ていました。そして、彼は癒しにととても疲れていました、そして多分悪魔が「私たちは彼をここで眠らせました、今、私たちは彼を溺れさせます」と言うまで、その日続けました。彼がそこに横たわっていて、波が彼を邪魔さえしなかったとき、彼はそのボートに寝転がっていたとき、彼は男でした。しかし、彼がそこまで歩いたとき、彼らが彼を目覚めさせたとき、彼はボートのブレイルに彼の足を置き、「平安あれ」と言いました。そして風と波が彼に従いました。それは人間以上のものでした。それは神が人間の唇を通して語られた、彼

の息子でした。ハレルヤ。

そして、その時のキリストが何であったか、私たちは今日でも位置的に同じ力を持っています。キリスト・イエスにそれを与えてください。教会の信仰はどこにありますか？「あなたはこれを信じますか？」

91 彼がカルバリーで平和または神からの憐れみを求めて泣いたとき、彼は人でした。彼は叫びました、「わが神、わが神、なぜあなたは私を見捨てたのですか？」彼が泣いていたとき、彼は男でした。しかし...そして彼が死んだとき、彼は男でした。しかし、彼がイースターの朝に起きたとき、彼は死と地獄の封印を破りました。兄弟、彼は出てきて、悪魔の喉に足を置き、死と地獄の鍵を取り、墓から飛び出して出てきました。彼は自分が神であることを証明しました。はい、先生。

彼が地上にいたとき、彼は神のように見え、神のように行動し、神のように説教し、神のように癒されました。彼は神であり、肉体の神でした。はい、先生。さて、私はイエス・キリストが昨日も今日もそして永遠に同じであると信じています。あなたはこれを信じますか？

92 医者のためにすべてのお金を費やした女性が一度いると思います。彼女はそれらのどれも治すことができませんでした。しかし、彼女は心の底から、「もし私がその人と接触することができれば、私は癒されるだろう」と言いました。

ある朝、あなたが望むように、小さなボートが茂みに押し込まれ、そこに小さな女性がいて、彼の衣服の裾に触れて降りてきて、彼女の疫病から元気になりました。あなたはこれを信じますか？

私は信じています—古い盲目の乞食が施しを乞うために通りに立っていたと信じています。そしてイエスが来られました。彼は彼に話しかけ、彼に視力を与えました。当時と同じイエスが今日もいると私は信じています。あなたはこれを信じますか？

93 私は、同じ復活したイエス・キリストが毎晩ここに力を示し、しるしと不思議を示していると信じています。私は異端と呼ばれる今世界中で起こっているこの大きな騒動を信じています...「人々は彼らの心を失った」と言います。世界に売り切れ、背後にあるすべての橋を燃やし、神に仕え、しるしや不思議、奇跡を信じるこの人々の集まり、そして大きな正式な教会は彼らが狂っていると言っています。私はそれがイエス・キリストがこの地上の人間の教会で肉体として生まれ変わり、しるしと不思議をしていると信じています。あなたはこれを信じますか？

私は、ペンテコステの日にペテロが言ったと信じています。「あなた方一人一人を悔い改め、あなたの罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなた方は聖霊の賜物を受け取るでしょう。約束はあなたとあなたの子供たち、遠く離れた子供たち、私たちの神である主が呼ばれるのと同じくらい多くの人たちにあるからです。」あなたはこれを信じますか？

94 私は彼がそこに戻ったのと同じ神だと信じています。ペンテコステの日に落ちたのと同じ聖霊は、私たちが今ここで感じているのと同じ聖霊です。あなたはこれを信じますか？

パウロが一晩中福音を宣べ伝えたのと同じ力で、人が倒れて自殺し、パウロが自分の体を自分の体の上に置き、再び命を受けたと信じています。私は、同じ聖霊の力がここにたくさんの人々を魅了するためであると信じています。それは彼らを何時間も古い熱い建物に置いて、栄光のキリストの福音を聞くようにするでしょう。あなたはこれを信じますか？

95 私は彼が視覚障害者に視力を与え、聴覚障害者に耳を傾け、愚か者にスピーチをして、足の不自由な人を歩かせたと信じています。私は彼が今ここにいて、当時と同じ神であり、当時と同じ力を持っていると信じています。当時と同じ兆候と不思議が今起こっていると私は信じています。あなたはこれを信じますか？

今ここにいるすべての人が「イエス様、あなたを私の癒し手として受け入れます」と言うなら、これらの女性たちはこれらの車椅子から立ち上がって建物から出て行くと信じています。あなたはこれを信じますか？

私は、耳にトランペットを持っているすべての男性とすべての女性がそれを引き出して元気になると信じています。もしあなたが彼の復活と同じ力で彼を受け入れ、彼の同じしるしを証明するなら。あなたは半分死んで、ある種の冷たい教義を信じて、それから神から何かを得ることを期待することはできません。あなたは彼がそうであると信じなければなりません、そして彼を熱心に求める人々の報酬者です。私は彼が約束されたすべてを実行するためにここにいると信じています。あなたはこれを信じますか？

96 今日ここには何人の罪人がいますか？ 私は神が今あなたに聖霊のバプテスマを与えると信じています。あなたはこれを信じますか？

私は神がすべての罪人を救い、すべての聖人を満らし、そして私たちを歓喜のために整えてくださると信じています。あなたはこれを信じますか？ 私は彼がそれをするだろうと信じています、そしてあなた方一人一人がそれを信じていると信じています。さて、見てほしい。心から信じてほしい。

イエスは、彼が戻ったとき、そこで死んだ人を再び生き返らせました。彼の魂は去り、戻って、再び肉体に住んでいました。そして、ラザロが死からよみがえった後、多くの人々がラザロを見に行きました。それはただの影だと思います。私は今日、私が彼の懐かしい友人になったことを知って、何をすべきかわからないことをとてもうれしく思います。あなたは彼の懐かしい友達になりました。私たちは彼と関係がありました。私たちは今日、彼と交わりを持っています。そして、私たちの名前は、彼がラザロの名前と呼んだのと同じ本に書かれています。私は、キリストにある他のすべての死者が神が彼と共に連れて来るとき、これらの日のうちに復活があると信じています。あなたはそれを信じますか？ それでは、兄弟よ、なぜここパームビーチで昔ながらの聖霊の集会ができないのかと私は思っています。あなたはこれを信じますか？

97 私は、あなた方一人一人が、あなたが見たものを見て、聞いたものを聞き、彼の力と現れを見た後、あなた方一人一人があなたの教会に行き、あなた自身で祈りの集会を始められることができると信じています。あなたはこれを信じますか？

私はあなたがここでこの場所全体を回して、この町をウイスキーで非常に乾燥させることができると信じています。そのため、ブートレガーは唾を吐くのに十分な水分を得るために1時間プライミングする必要があります。それが真実だと思います。警察やその他すべてについて、彼らが警察の車にウイスキーを盗んでいること、そして彼らがここに持ち込んでいるものについて聞いています。問題は何ですか、彼らは酒場を失い、彼らの教会は正式になりました、そして彼らは他のすべてを[不明確な言葉]で汚染し、国と教会のメンバーを汚染し、飲み、煙を出し、ギャンブルし、そして他の人々のように生きています世界。それがロシアの共産主義を解き放ったものです。あなたはこれを信じますか？ 私はそこに行ったことがあります。私は私が話していることを知っています。

98 彼らは神が奇跡を行うのを見たとき、涙を流しながら共産主義者たちに言いました。「私たちはそのような神を受け入れます。私たちはそれを信じています。はい、先生。」しかし、教会が逃げ、形式的で、無関心で、不敬虔なために逃げて、その力を否定し、ただ敬虔さの形を持っていたのです...聖書は、彼らは敬虔さの形を持っているが、その力を否定すると言っていました。私たちはその時代に生きていますと信じています。そうですか？ あなたはこれを信じますか？ 彼らはそうなるでしょう—ある種の敬虔さを持っていますが、その力を否定するでしょう。

さて、聖霊がここに移動し、この聴衆の上を移動しているとき、私は今、誰もがキリストを必要として信じています。神が今それをあなたに与えてくださるのです。

私は自分の時間がなくなったことを知っています。聖霊は私を閉ざし続け、私に言い続けます、行きなさい。

99 何人が神を必要としていますか？ 手を挙げてみませんか？ ここに生の男性と女性のどちらがいるのだろうか……さて、見てください。私はこれを信じるこれらの説教者の一人ではなく、人々を愛撫して神の国に連れて行こうとしています。あなたは非合法な子供を作ります。福音の火の下に入ることができない…。

ブラザー、ピーター、ジェームス、ジョン、そして彼らはパンチを引っ張らなかった。彼らはすぐにそれを説教し、「ああ、あなたは偽善者の世代などだ」と言いました。ジョンは言った、「誰があなたに来る怒りから逃げるように警告したのですか？」

そして兄弟、彼らは来て、得点によってバプテスマを受けました。赤ちゃんの赤ちゃんをやめなければならない時が来なければなりません。あなたはそれらを弱体化することはできません。それが今日の問題です。説教者たちは教会の手袋をはめて福音を扱っています。それが今日の問題です。今日私たちに必要なのは、あなたが罪人で地獄に行くことを告げるための生の平らな福音です。あなたが聖霊を持っていないなら、あなたは神の国から出ています。そうです。あなたは二度と生まれたことがないので、超自然を信じることはできません。そして、あなたが生まれ変わったとき、あなたは自分自身が超自然なので、超自然を信じなければなりません。

100 ここに罪人で、「説教者、今週の集会に行ったことがあります。」と言うのに十分な男性または女性になりたいと思っている人がいますか。私は見てきました。私は罪人であると確信しています。あなたに私のために祈ってほしいのです。」手を挙げられるほどの恵みはありますか？ 神はあなたを祝福します、レディ。他の誰か？ 神はあなた、あなた、あなたを祝福します。

説教者に見てもらいたい。あなたは周りの人々を赤ん坊にする必要はありません。彼らに真実を伝えなさい。それが裁きの日に立つものです。神はあなたを祝福します。そして、あなたがそれに誠実であれば、神はあなたを救ってくださいます。

ここの誰もが言います、「私は罪人、説教者です。私のために祈ってください。救われたい。」手を挙げて「救われたい」と言ってください。手を挙げていただけますか？ 大丈夫です。こちら側？ どこか？ 大丈夫です。

101 聖霊のバプテスマを受けていない人がここに何人いますか。「ブラナム兄弟、あなたは私のために祈ってください。聖霊のバプテスマが欲しいです。私は教会に属しています。それは十分に真実です。そして、私はイエスを救い主として受け入れましたが、私は聖霊を持っていないことを知っています？」

さて、あなたは「まあ、私は聖霊を得たと信じています」と言います。そうではありません。あなたはいつ聖霊を得たか知っています。あなたは精神的な後処理で聖霊を得ることはありません。聖霊は神の賜物です。

102 そして、私の親愛なるバプテストの友人であるあなたには、信じたときに聖霊を受けたと教えられました。それは聖書の誤りです。使徒19章、パウロはたくさんのバプテストに説教しています。「バプテスト？」彼らはバプテストでした。彼らはバプテストのヨハネから来ました。

彼がエフェソスの上流の海岸を通って来るとき、彼は特定の弟子を見つけます。そして彼は彼らに言った、「あなたがたは信じてから聖霊を受けましたか」。彼らは弟子であり信者でした。

そして、見てください、友達、それだけでなく、彼らは神を叫び、賞賛し、素晴らしい、楽しい出会いをしていました。話させてください。今、世界がつまずいているところがあります。見てください。彼らは素晴らしい会合を持っていました。アポロはそこにいて、回心してバプテストの説教者になった弁護士でした。そして彼は言いました、「あなたは信じてから聖霊を受けましたか？」

彼らは言った、「彼らが聖霊であるかどうかはわかりません。」

「どのようにバプテスマを受けましたか？」と言いました。

「ヨハネに」と言いました。

「ヨハネは悔い改めのためにバプテスマを授けただけで、来るべき彼らと来るべき彼を信じるべきだと言った」と言った。そして、これを聞いたとき、彼らはイエス・キリストの名によってバプテスマを受けました。パウロは彼らに手を置いた。聖霊が彼らに臨みます。彼らは異言で話し、神を拡大しました。そうですか？ それが聖書です。

103 私は神の言うことを言う以外に何の責任もありません。さて、あなたが信じる時、あなたは聖霊を受けません。あなたが信じた後、あなたは聖霊を受けます。あなたは信じた後にそれを受け取ります。そしてそれは神の賜物です。信仰はありません、他に何もあなたにそれを与えることはありません。あなたはそれを手に入れたと想像することはできません。信仰だけでそれを受け入れることはできません。それは絶対に心に降りてきて、イエス・キリストの存在を知らせる神の働きです。

そして、あなたが聖霊を受けるとき、あなたはあらゆる種類の奇跡とするしを信じます。そして、あなたはそれを信じるだけでなく、それらを実践します。「これらのしるしは信じる者に従うものとする。悔い改めなさい、あなた方一人一人がバプテスマを受けなさい。全世界に行きなさい。福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受けた者は救われるでしょう。信じない者はのろわれます。そして、これらのしるしは信じる者たちに従うでしょう。わたしの名において、彼らは悪魔を追い出し、新しい舌で話し、蛇を取り上げ、致命的なものを飲み、病人に手を置き、そして彼らは回復するでしょう。」それは信者のしるしです。あなたはこれを信じますか？ それが聖書が言ったことであり、イエスが地球を去ったときに最後に言われた言葉です。

104 さて、それらの兆候があなたをフォローしていない場合、あなたは自分が信者であると想像しているだ

けです。イエスが言われたので、「これらのしるしはたぶん続くのでしょうか？これらのしるしが続くでしょう」と彼の最後の言葉は教会に宛てました。私たちが少し頭を下げている間、神があなたを助けてくださいますように。

主イエスは、きっぱりと、率直に、昔ながらの方法で、奨学金なしで、ひもで結ばれた耳の跡もなく、貧弱な方法で散らばっていましたが、聖霊はそれらの言葉を取り、人々の心に埋めましたここに。この建物には、自分が罪人であることを知っていて、救われたいと願っている男性と女性が立っています。彼らは私に彼らのために祈るように頼みました、なぜなら彼らは会議にここにいて、そして彼らはしるしと不思議、素晴らしいことが起こっているのを見てきました。そして、私たちは彼らが信じていることを知っています。

105 そして、親愛なる父よ、あなたがそうなるように祈ります。...今、彼らが謙虚な心であなたを救い主として受け入れ、救われますように。主よ、ここには教会に属する人々がいます。そして、あなたは私の心の中で知っています、私たちは彼らに彼らの教会を去るように言っているではありません。あなたが香油であるギレアデの油を注ぎ、他の教会のメンバーが欲しがるまで彼らがとても塩辛くなるまで、私たちは彼らをそのような深い誠実さの中に入れようとしているだけです彼らのようになるために、とても力に満ちています。彼らが病気になったとき、彼らは彼らのために祈るために来るように彼らに呼びかけるでしょう。

ああ、神よ、それを認めてください。そして、論争が教会にあるとき、彼らは家に落ち着き、祈り、そしてそれがすべて滑らかになるまで神を求め、神の教会が進むのを見るために彼らの心に飢えを持った祈りでそれを覆います。神よ、これらの祝福を人々に与えてください。私たちはすぐにこの人生を去ることを知っています。私たちは自分たちの生活を説明しなければなりません。そして、私はあなたにこれらに憐れみ深くあるようにお願いします。

106 さて、頭を下げている間、罪人でキリストを受け入れたいと思う人はいないでしょうか。さて、すべての頭が頭を下げました。すべての目を閉じた。これを聖霊と私としましょう。「ブラナム兄弟、私は今週ここに来て、祈りを通して、癒しや奇跡のしるしや不思議を見てきました。私は会議に参加しています。私はこれらの素晴らしいことがその場所の周りで起こるのを見てきました。聴覚障害者は聞きます。目の見えない人は見ます。ばかげた話。私は望んでいます—今、キリストを私の救い主として受け入れたいのです。」

どこにいても立ち上がって立ち上がっていただけませんか？「私は作りたい...今、私の心の中で、神は私の心を知っていると...」と教えてください。さて、あなたの後、あなたは彼がそこにいと信じています...さて、「私の霊はしません常に人と一緒に努力してください」を参照してください。

さて、もしあなたが彼がそこにいと信じるなら……今、彼が再び戻るのとは2倍難しいでしょう。さて、あなたは立って言いますか、「ブラナム兄弟、私を覚えておいてください。私は今立っています。私は今、キリストを救い主として受け入れたいと思っています。私は罪に背を向けたいのです、そしてこの日から私は神に仕えるように努めるつもりです。」キリストを知らない罪人よ、あなたは立ちますか？

107 さて、お持ちの方は……ありがとうございます。聖霊を持っている人たち—聖霊が欲しいのですが、あなたは立ちますか？「聖霊を受け入れたい。ありがとう、ありがとう。それは良いことです。罪人と聖霊を求める者の両方の周りに……大丈夫です。私は神がそれを与えてくれると信じています。聖霊のバプテスマを求めている他の誰かが、祈りの中で覚えておきたいですか？若い男、神はあなたを祝福します。罪人？そうです。あなたは罪人ですか？そうです。神はあなたを祝福します。立ったままなのであれば、ちょっと待ってください。

さて、主よ、そのうちの一人を滅ぼさないでください。あなたはそれらを見ます。あなたはそれらを知っています。そして、私はあなたが彼らの誰もが滅びさせないように祈ります、しかし彼らが今日の午後、墓からラザロを呼んだそのイエスと知り合うことができますように。主よ、今それを認めてください。存在し、この仕事をするためにすべての力を持っている聖霊が、結果を彼らの心にもたらす大きな信仰をもって今すぐ彼に油を注がせてくださるよう祈ります。イエス・キリストの名において、私はそれを尋ねます。

108 さて、あなたが立ったままの間……さて、病気の方は立ち上がって、「ブラナム兄弟、私の体のために祈りが必要です」と言います。さて、あなたはあなたの病気のために祈りを必要としているあなたに立ちますか？神はあなたを祝福します。なんて素晴らしい時でしょう。なんて1時間。ちょっと待ってください。

兄弟たち、私はあなたにこの聴衆、ペイル兄弟、ボスワース兄弟、ジミーを見渡してほしい。私のためにこの聴衆を見てほしい。私と一緒にここまで歩いてほしい。その聴衆に向かって手を握ってください。(手を置いてください...)ここにミニスター達、私はあなたにその聴衆に向かって手を握って欲しいです。聖霊に満

たされた牧師たちは至る所で、聴衆に向かって手を握ってください。

109 今、私は真実か誤りを言ったと思います。私はここにバックアップする聖書を持っています—私が真実を語ったと言ってください。聖霊はここにいます。もしあなた方一人一人が今あなたの心に誠実であるならば、あなた方はあなたが求めるものだけを手に入れることができると私は信じています。

さて、ヨシユアがヨルダン川を渡ったとき、彼らはエリコの周りを行進し、それから彼らは叫び声を上げ、エリコの壁が落ち、そして彼らは入って街を取りました。[テープ上の空白のスポット]

みんな今日の午後に欲しい……あなたは癒しが欲しいですか？ 入ってそれを取りましょう。あなたが癒しを望むなら、それはあなたのものです。神はあなたにそれを約束されました。それはあなたのものです。あなたが救いを望むなら、それはあなたのものです。しかし、先に進んでそれを取りましょう。

110 さて、私たちの頭を下げて、ここにいるすべての人があなた自身の方法で、そのすべての人が彼自身の方法で、今祈りましょう。そして、あなたは私が祈るように祈ります。あなた自身の方法で神に祈ってください。

さて、天の父、ここにいる聖霊は、これらの人々の一人一人に彼らの心の深い欲望を与えるために存在しています。彼らの多くはここにいて、救いを望んでいます。彼らは手を挙げて立ち、魂への救いを望んでいました。神よ、あなたが彼ら一人一人をあなたの聖霊、罪の赦し、そして聖霊のバプテスマで満たしてくださいように祈ります。

そして私はまた、主よ、今立っているこれらすべての病人のために祈ります。彼ら在必死に困っていて、今救出されなければならないことを知っています。そして、私たちはあなたがここにいると信じています。あなたはこの日を定めました。あなたは私たちがここにいるように決めました。そして、この最後の8日か10日を通して、そのしるし、不思議、そして奇跡が起こりました。

111 そして今、主よ、ここにいる一人一人が彼らの違いをすべて忘れて、今あなたを受け入れてくださいますように。彼らが言うかもしれませんが、「私は世界が何を言っているかは気にしません。彼らが私をホーリーローラーと呼んでいるかどうか、彼らが私を宗教的な狂信者と呼んでいるかどうかは気にしません。私は今、イエス・キリストの復活の力でイエス・キリストのところに来ています。そして、私は今、信仰によって私の癒し、私の救いを主張しています。そして主よ、私は彼らがペンテコステでしたようにあなたに賞賛を与えるつもりです。私はそこに立ってあなたを賛美し、あなたが私が求めているものを私に与えるまであなたを祝福します。主よ、私は今それをあなたに託します。」

そして、神の御子イエス・キリストの御名によって、聖霊が悪魔のすべての力を追い返し、一人一人がイエス・キリストの御名によって神の臨在で満たされますように。



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7